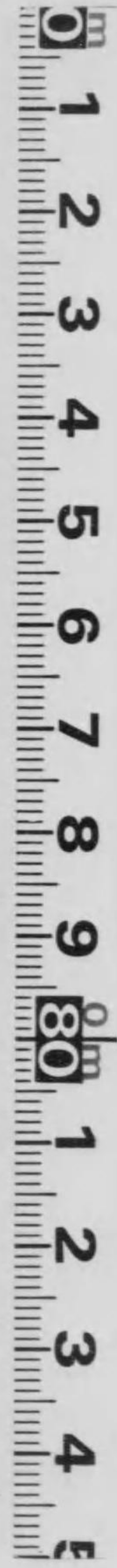


263.5
30



始



エト5H-51

263.5-30

講 話 資 料

月 曜 訓 話

西 川 三 郎 著

大正
2. 6. 19
内交

東 京
以 文 館

自序

小學校に於ける兒童の訓練としては訓導の修身教授と學校長の式日講話の二つあり。前者は主として修身教科書の教授にあるを以て稍もすれば形式的教授に偏して兒童の實際的訓練を輕視し易し。後者は主として式日に關する講話に屬するを以て兒童日常の行爲を批判するの機會に乏し。而して又訓導の訓練法は學校長の訓練法と一致せず常に統一を缺く事あり。是實に兒童教育の一大缺陷にして又訓練上の重大問題也。然り而して無邪氣にして活動性に富める兒童は盛に各人の自然性を發揮して學校の内外に活躍せんとす。是豈に閑過すべき問題ならんや。

是に於てか余は是等の缺陷を救濟して學校内に於ける訓練

を統一し、更に進んで兒童訓練の實際的效果を完ふせんとし、茲に月曜訓話を施し、以て道德教育の缺陷を補ふの急務を感ぜり。思ふに、教職に従事するものは、年中行事を施行するに當り、時々刻々起るべき幾多の問題は、到底修身教科書の教授のみによりて之を處斷する事頗る難しとせん。是余が茲に本書を著はしたる所以也。

本書中「月曜訓話の實際」は、上田徳太郎氏が數年間小學校に於て毎週講話せられたる實際的訓話にして、著書は特に請ふて茲に之を掲載する事を得たり。

大正二年五月

著者謹識

講話資料
月曜訓話目次

第一學期

第四月

- 第一回 始業式に關する訓話……………一
- 第二回 入學式に關する訓話……………四
- 第三回 級長副級長任命に關する訓話……………七
- 第四回 校外教授に關する訓話……………一〇

第五月

- 第一回 出席獎勵に關する訓話……………一三

- 第二回 校外兒童心得に關する訓話……………一六
- 第三回 海軍記念日に關する訓話……………一九
- 第四回 運動會に關する訓話……………二二

第六月

- 第一回 保護者懇談會に關する訓話……………二五
- 第二回 鎮守祭に關する訓話……………二七
- 第三回 夏期の衛生に關する訓話……………三〇
- 第四回 學校内の規律に關する訓話……………三三

第七月

- 第一回 七月中に於ける心得に關する訓話……………三五
- 第二回 祖先崇拜に關する訓話……………三九
- 第三回 夏季休暇中の心得に關する訓話……………四一

- 第四回 第一學期終業式に關する訓話……………四四

第二學期

第九月

- 第一回 第二學期始業式に關する訓話……………四八
- 第二回 學用品の準備に關する訓話……………五一
- 第三回 遠足運動會に關する訓話……………五三
- 第四回 兒童の禮儀に關する訓話……………五六

第十月

- 第一回 十月一日に關する訓話……………五九
- 第二回 戊申詔書に關する訓話……………六四
- 第三回 兒童の自治心に關する訓話……………六四

第四回 教育勅語に関する訓話……………六七

十一月

第一回 日誌選奨に関する訓話……………七〇

第二回 兒童の忍耐力に関する訓話……………七三

第三回 帝國議會に関する訓話……………七六

第四回 兒童の習慣に関する訓話……………七八

十二月

第一回 十二月一日に関する訓話……………八一

第二回 冬季中の心得に関する訓話……………八四

第三回 冬季休暇中の心得に関する訓話……………八七

第四回 第二學期終業式に関する訓話……………八九

第三學期

十一月

第一回 一月の始業式に関する訓話……………九三

第二回 雪の通學に関する訓話……………九六

第三回 約束事項に関する訓話……………九九

第四回 兒童の自習に関する訓話……………一〇二

十二月

第一回 二月一日に関する訓話……………一〇五

第二回 日露開戦に関する訓話……………一〇七

第三回 紀元節に関する訓話……………一一〇

第四回 梅花の教訓に関する訓話……………一一二

第三月

第一回 三月一日に關する訓話……………一三五
 第二回 學藝會に關する訓話……………一三八
 第三回 陸軍記念日に關する訓話……………一二〇
 第四回 證書授與式に關する訓話……………一三三

講話資料 月曜訓話の實際 目次

第一回 兒童の出席獎勵に關する訓話……………一二七
 第二回 兒童の意地に關する訓話……………一二九
 第三回 櫻花の教訓に關する訓話……………一三一
 第四回 兒童の姿勢其の他に關する訓話……………一三二
 第五回 一學年兒童の規律に關する訓話……………一三四

第六回 兒童の出席勉強に關する訓話……………一三六
 第七回 校外教授の結果に關する訓話……………一四〇
 第八回 運動會の心得に關する訓話……………一四三
 第九回 トラホーム治療に關する訓話……………一四五
 第十回 運動會の成績批評の訓話……………一四七
 第十一回 海軍記念日に關する訓話……………一四九
 第十二回 公德養成に關する訓話……………一五〇
 第十三回 蟻の善徳に關する訓話……………一五三
 第十四回 國民の不道德に關する訓話……………一五五
 第十五回 展覽會の成績批評訓話……………一五八
 第十六回 國民の惡風に關する訓話……………一五九
 第十七回 我國の勳章に關する訓話……………一六二

第十八回 兒童の學術操行に關する訓話……………一六五

第十九回 兒童の服裝姿勢規律に關する訓話……………一六八

第二十回 修徳の工夫に關する訓話……………一七一

第二十一回 遠足運動會に關する訓話……………一七四

第二十二回 學校内雨天の日に於ける心得訓話……………一七七

第二十三回 兒童の態度に關する訓話……………一七九

第二十四回 校外兒童心得に關する訓話……………一八一

第二十五回 兒童の操行に關する訓話……………一八三

第二十六回 四少年の教訓に關する訓話……………一八五

第二十七回 重要なる事項に關する訓話……………一八六

第二十八回 兒童の勉強に關する訓話……………一八九

第二十九回 寒中に於ける兒童心得の訓話……………一九一

第三十回 成績品展覽會批評訓話……………一九三

第三十一回 國民の遵法に關する訓話……………一九四

第三十二回 兒童の學校規律に關する訓話……………一九七

第三十三回 兒童の服裝に關する訓話……………一九八

第三十四回 兒童の缺席に關する訓話……………二〇一

第三十五回 他校參觀につきての訓話……………二〇二

第三十六回 二月中の重要事項の訓話……………二〇四

第三十七回 展覽會觀覽心得の訓話……………二〇六

第三十八回 展覽會の成績批評訓話……………二〇七

第三十九回 兒童の缺點矯正に關する訓話……………二〇九

第四十回 校舍校具の取扱に關する訓話……………二一二

第四十一回 兒童の姿勢に關する訓話……………二一三

第四十二回 兒童の容儀に關する訓話……………二二六

第四十三回 兒童の整頓に關する訓話……………二二七

第四十四回 明治天皇の御聖徳に關する訓話……………二二八

第四十五回 運動場に於ける教訓事項の訓話……………二二五

第四十六回 式場に於ける心得に關する訓話……………二二八

第四十七回 入學式に關する訓話……………二三〇

第四十八回 入學兒童對面式に關する訓話……………二三三

第四十九回 級長副級長任命に關する訓話……………二三五

第五十回 海軍記念式に關する訓話……………二三六

第五十一回 日誌選獎式に關する訓話……………二三八

第五十二回 開校記念日に關する訓話……………二四三

◎附 錄 皇室祭祀令及式日規程及禮服……………二四三

「完」

講話 月曜訓話 資料

西川三五郎著

第一學期

第四月

第一回 始業式に關する訓話

諸子、本日は本學年の始業式なり。諸子は何れも前學年末則三月二十
 五日、目出度修業證書を受領する事を得、實に慶賀の至りなり。諸子の
 父母、兄弟、姉妹及親戚知己等必ず非常なる喜なりしなるべし、又特に
 優等證及精勤證を得たるものは尙一層の喜びなりしなるべし、諸子

は本日は已に何れも一學年づゝ上級して尋常一年生は二年生となり、二年生は三年生となり、三年生は四年生となり、四年生は五年生となり、五年生は六年生となりて各々上級に進みたるを以て前學年の學級にあらざるなり。諸子よ諸子は前日證書を受領したる時は如何なる喜びを感せしか、諸子が喜びを感せし如く、受持の先生及校長はじめ其の他の人々も何れも喜びを感せざるものはなかりしなり。而して諸子が此の目出度き榮譽を得たるは全く父母兄弟及教師の恩惠による也。諸子は常に父母の恩、教師の恩につきて感謝の意を忘るべからざる也。而して諸子が此の恩を報ずるは又諸子の責任なり。

諸子、諸子は決して此の榮譽を以て自己の力のみなりと思ふべからず、諸子の心掛の如何により又諸子の勉強の如何によりて此の結果

を得たるは勿論なるも、諸子の勉強及心掛をして今日の結果あらしめたるは皆父母教師の恩惠による也。余は此の始業式に際し諸子に特に一言すべきは即ち此の名譽に對する責任問題是也。諸子は今日已に上進して何れも上級の學級となりたるが、之と同時に自己の責任の重大なる事を自覺するを要す。二年生は一年生より其の責任重大なり、又三年生は二年生よりも其の責任重大なり、又四年生は三年生よりも其の責任重大なり、而して五年六年生は何れも四、五年生よりも其の責任重大なるを知らざるべからざる也。モシ諸子が已に上段の學級となりても前學年の考を以て學業を勉強するあらんか必ず失敗に終るべきのみ、諸子は此の考を忘るゝ事なく一層の奮發と勉強とを以て、學業を勉強し、常によく教師の命を守り、以て自己の修養すべき學科に向つて猛進する處なかるべからざる也。而して特に諸

4 子の注意を要すべき事三つあり、第一は身體の健康を計る事也、第二は精神の健全を計る事也、第三は學科に對する智識の收得を計る事也。即ち諸子は此三項目の修徳及工夫につきて一日も忘るゝ事なく、常に自己の學業及徳行につきて反省し修練する所なかるべからざる也。本學年に於て諸子の最も注意を要すべき事は則ち此の三大事項の遂行にある也。此の目的を達するは即ち父母に對し教師に對して感謝の意を表するのみならず、將來の國民として最肝要の事也。

第二回 入學式に關する訓話

本日は本校の入學式なり。本日入學せる兒童は男女合せて二百五十餘名にして内男兒百五十名、女兒百名なり。而して本日より此の兒童は何れも本校の兒童となりたるを以て何事も學校の規則に従ひよ

く教師の命を守らざるべからざる也。

5 入學兒童は是迄慈愛深き父母の膝下に育ち、生れ落ちてより今日迄或は母親の懷に抱かれ、或は母親の手によりて育ち、或は母親の愛によりて家庭教育を受けしが、今日よりは、本校の兒童となりたるを以て何事も學校の規則に従ひ常に教師の命を守らざるべからざる也。諸子は家庭にありて是迄我儘に育ちよく母親父親の命を守りたるなるべし、學校も家庭と同じく教師はよく諸子を愛し諸子の伴侶たるべし、家庭の親は父母なるも學校の親は教師なり、即ち學校の教師は諸子の父母に代はりて諸子の教育を施すものなるを以て別に嚴めしき人にはあらざる也。諸子が一たび本校の兒童となりたる上は、各々受持の教師ありて何事も諸子の面倒を見る事となり居れり、又教師は毎日諸子のためになる事を教へ唱歌やら、體操やら、其の他本

を讀んだり又は字を書いたり、話をしたりする事を教へらる也。故に諸子は學校にありては常によく教師の命を守り決して我儘なる事をなすべからざる也。若し諸子にして教師の命を守らず我儘なる時は教師は直に諸子を叱責する事あるべし。諸子は此の時如何に過るとも或は許されざる事もあるべし。是畢竟諸子將來のために學校教育を施す所以にして決して諸子を苦めんとする所以にあらざる也。故に諸子は入學當時は或は學校の規則に慣れず或は窮屈の思をなす事もあるべし。然れども之は諸子のために必要なる事なり。何事も苦まざれば決して樂あらず。昔より苦は樂の種といつて何事も困難せざれば良き結果を得る事能はざる也。

諸子、諸子に必要な注意事項多しと雖も明日より直に心得べき事は學校の始業時間之也。諸子は決して此の時間に遅刻するが如き事

あるべからざる也。次に必要なるは學用品の準備是也。諸子は毎日學校に上校する場合には凡ての學用品を調べて決して不足するが如き事あるべからざる也。次に必要なるは服裝是也。學校の服は必ず質素なるを要す。其の他上校及下校の時はよく教師の命を守り決して禮儀を失はず亦混雜し疾走するが如き事あるべからざる也。余は更に諸子が本校の兒童と仲よくし學校の規則を守り、教師の命を守りてよき人とならん事を望む。

第三回 級長副級長任命に關する訓話

7
本學期に於ける級長及び副級長は只今任命せる通り也。余は茲に級長及副級長を任命するに當りて一言する所あらんとす。
級長及副級長は何れも各學年各學級兒童相互の推選により教師及

8
校長より之を承認せられたるものにして、其名譽は勿論非常の責任を有するもの也。級長は常に其級の當番及其他の要務を掌るものにして、學業、操行及身體此の三つの成績優良なるものより之を選拔せる也。故に級長及副級長になりたるものは何れも此の二つの成績が比較的に優良なるものなる事を知るべし。之と同時に級長及副級長は自分を推選せる人及教師に對して大なる責任を盡さざるべからざる也。何となれば級長副級長にして兒童の意志に反し或は又學校の目的に違反するが如き事あらんが是實に級長及副級長の責任を無視したるものにして其の結果は學級全體に對して惡感化を及ぼすのみならず學校全體の風紀を破り遂には人の子を毀るに至る也。故に本日級長及副級長に任命せられたる人々は凡て自分の一舉一動一言一行は學校全體の兒童に影響するものなる事を自覺し以て

大に其の任務と責任とを完ふせざるべからざる也。
而して級長となりて第一に心得べき事はよく學級全體の世話面倒を見同時によく教師の補助をなすにある事を知らざるべからず。殊に洒掃當番、教室掃除、校外遠足、運動會等の場合は常に他兒童を指揮誘導する責任あるものなるを以て人を見る事己を見るが如く萬事に同情及親愛の念を以て他兒童に對し決して壓制的行爲をなすべからざる也。間には自己の權力を濫用して部下を苦めるものあるが如きは實に級長として思はざるの甚しきもの也。又一旦教師より命令せられ又は傳達せられたる事項はよく確實に之を守り、一般兒童に對し漏なく之を傳達するを要す。其の他上校及下校の際の如きは特に規律を亂さざるやうに留意し、兒童解散の如きは十分に注意し亂雜ならざるやうにすべし。

余は本學期の級長を任命するに當り、特に諸子が共同一致して一學級は恰も一人の兒童が活動するが如く、萬事の行動等融和一致して善美なる級風を作り以て他學級に劣らざる成績を揚ぐやう努めん事を切望す。特に廊下帽子掛の整理、教室机内の整頓、室内掃除、墨板教卓の整理等常に注意して之を努め、服裝、容儀、言語等の些事に至るまで善良なる成績を擧げん事を望む。

第四回 校外教授に關する訓話

本日は校外教授の心得に就きて一言すべし。校外教授は校外にありて教授をなすものにして決して物見誘山にはあらず。即ち學校に於て教授せる事項の觀察實驗等教科書中にある教授事項につき更に一層其の智識を確實にせんとするにある也。然るに往々校外教授を

以て物見に出かけるが如き感をなし、服裝を綺麗にし或は又辨當等美味を携帯するものあるは大なる誤なりとす。春季に於ける校外教授の目的は多くは草木の萌芽發育及自然物の觀察を主とし併せて山野の風光、田舎の生活等を實驗するにあるものにして、決して春の野に遊びて一日の遊興を貪らんとするにはあらざる也。勿論春季は時候もよく春風習々として實に心地よきに相違なければども之は寧ろ副次的の目的にして、精神を爽快にし身體の健康を計る等は校外教授に附隨せる目的なりとす。此の故に一言にして校外教授は如何なるものなるかを云はゞ則ち學校外にありて教授をなすといふに外ならず。換言すれば校外といふ教室に於て教授をなすといふ事也。されば諸子は校外教授の日にあたりては決して服裝の華美を競ひ或は又食物の美味を撰ぶ事なく、平日の授業を

受くると同様の考を以て之を行ふの心得を忘るべからざる也。勿論校外に行くを以て母親は子供の愛情に引かれて相當の服装を用ひらるゝは致方なきも決して華美なるを要せず、質素清潔にして、児童の本分を失はざる事に注意するを要す。

余は校外教授を施行するに當り、諸子が校外にありても常に児童の本分を守り決して學校、教師、父母の名譽を汚すが如き行爲をなさざらん事を切望す。例へば行進中列を亂して雑談するが如き、或は又休憩時間中勝手に列を離るゝが如き、或は又亂りに買食をなすが如き、或は亂りに草花を手折るが如き、或は相互に喧嘩争論をなすが如き、或は又危險の場所に近づくが如き、或は又卑劣なる行爲をなすが如き、是等は小學校児童として大に注意する所あるを要す。

又校外にありて教師の談話ある場合はよく教師の教授に留意し其

談話を謹聽するを要す。或は又教師の命令ありたる時は直に集合し、或は又解散するを要す。其の他校外に於て見聞せる事項は各自に手帳に記入し、自然物の觀察、山野風光の寫生、動植物の採集等一日を有益に使用する心得なかるべからざる也。特に歸校の際は決して規律を亂す事なく家に歸りたる上は其日の教授事項を整理するを要す。

第五月

第一回 出席獎勵に關する訓話

生徒諸子。諸子が小學校児童として心得べき事少からずと雖先づ第一に必要なは學校に出席するといふ事にあるなり。如何に才智あり學問ある人も學校に出席せざる時は遂には愚者となり又無學とな

るに至るもの也。又如何に身體健康なる人も我儘勝手に學校を缺席する時は其の成績は不良となるに至るもの也。然れども生徒諸子の中には病氣其の他止むを得ざる事情によりて學校を缺席する事あり是實に致方なき事也。病氣は人間の一大事なれば之が爲に學校を缺席するは決して悪しきに非ず。寧ろ大切なる事也。其の他父母の病氣看護等の爲に學校を缺席するは致方なき事也。然れども多數兒童の中には病氣にも非ず看護にも非ずして、活動又は御客となりて他に行くために學校を缺席するものあり。或は自分の家よりは學校に行くを稱して、途中に遊び居るものあり。是等は實に兒童の本分を忘れたるものにして考違の甚しきもの也。

凡そ兒童として最大切なるは學校に昇校しよく教師の命を守り、學科を勉強し善良なる兒童となるにあり。然れど第一に必要なるは學

校に昇校するといふ事にある也。學校に昇校せず怠惰なる人は決して善き兒童となる事能はざる也。故に諸子が心得べきは常に身體の健康を計るにある也。而して身體の健康を計るには第一に運動、睡眠、飲食、等衛生上に注意し常に體育につきて心掛なかるべからざる也。もし身體健康ならず常に病魔の爲に襲はるゝが如き人は如何に學校に昇校し熱心に學科を習はんとしても得べからざる事也。諸子の中には斯の如く怠惰のために學校を缺席する人は至つて少きを信ず。雖も間には此の如き心得違の人なしとせず。本學年に於ては何れの學級も一人の缺席者なく日々昇校して學科を勉強し優良の成績を擧ぐるに努めざるべからざる也。前學年末に於ては何れの學級もよく熱心に學科を勉強したる結果出席歩合は非常によき成績を示したり。故に本學年度に於ても此第一學期より其心得を忘るゝ事

なく出席の歩合をよくし、市内に於ける有数の小學校たらん事を心掛けざるべからざる也。苟も一人にても心得違の人あらんか遂には不成績の結果を生ずるに至るべし。故に兒童諸子に向つて特に此の出席の獎勵につきて一言する所以也。

第二回 校外兒童心得に關する訓話

本日は校外兒童心得に就きて一言すべし。諸子は學校内にありてはよく教師の命を守り、學校の規則を遵奉し別に甚しき惡行爲をなすものなしと雖も一たび學校の門を出れば各自に自由行動をとりて惡戯をなし他人公衆の迷惑を顧みざるものあり、是れ小學兒童として甚だよろしからざる事なり。

凡そ小學校の兒童たるものは學校内にあると學校外にあるとを問はず常に兒童の本分を守り決して表裏の行爲あるべからざる也。然るに諸子の中には學校内にては學力操行よろしきも校外にありては其行爲之に反するものあるは往々聞く處也。學校内にありては級長又は優等として尊崇せられつゝある人も家庭にありては父母の命を奉せず却つて強情我儘なる兒童あり。此の如きは真正に善良なる兒童と稱する事を得ざる也。真正に善良なる兒童とは學校の内外を問はず其の行爲に表裏なきをいふ也。

諸子も知れる如く學校に於ては毎週一回若しくは二回位學校教師は其通學區域の巡視をなすことゝなり諸子の校外に於ける行爲を巡視しつゝある也。而して其の巡視の報告によりて之を見るに諸子は遊ぶべからざる場處に遊び爲すべからざる行爲を敢てし、或は他人の家屋に樂書し或は露店に佇立して立食をなし或は道中にて遊

戯をなし、或は木剣を携へて危険なる遊戯をなし、或は賭博に類する遊戯をなすもの等ありて、諸子の行爲は如何にも小學校兒童としての行爲と稱する事能はざるものあり、其の他卑劣なる言動を敢てし野卑なる舉動をなし、或は紙鳶揚遊等實に公衆の妨害となるべき事項頗る多しとす。是等は何れも學校教師の巡回の都度一々學校に報告せられつゝあるを以て直に之を知る事を得べきのみならず、各警察署にありては巡查を以て之等の調査をなしつゝあるを以て諸子の行動は一々學校に報告せられつゝある也。間には善良なる行爲をなして賞讃すべきものもあれども、之等は至つて少く主として悪行爲の報告のみ頗る多しとす。

諸子は將來生長の後善良なる國民たらんとせば、今日より常に自己の行動を慎み、苟も小學兒童たる以上は凡ての言行は必ず他人の模範となり、兒童の本分を忘るべからざる也。諸子は一層自己の行爲につきて戒心する所あるを要す。

第三回 海軍記念日に關する訓話

本日は我國が露國と戰つて日本海の海戰に於て露國の艦隊を塵滅したる日出度日也。諸子も知れる如く我國と露國との戰は實に世界に於ける有名なる大戰爭にして、又我國開關以來未曾有の大戰爭なりし也。當時露國は世界の強國として雄を歐洲に振ひ進んで亞細亞の領土をも吞併せんとする勢なりし也。日清戰爭の時露國は三國同盟を結びて我國に抗議して遼東半島を還付せしめ、其後旅順を租借して要塞を置き、軍港を設け、同時に浦鹽にも艦隊を集中して實に警戒する處ありたり。露國は愈々進んで朝鮮をも併吞せんとして茲に

端なくも日露の勢力の衝突は生まれり。我國は自衛の必要上より露國と議合はず遂に三十七八年の戦役を見るに至りたる也。初め露國は旅順に艦隊を集中し大に警戒示威する所ありしが我勇敢なる海軍の爲めに悉く塵滅せられたりしが露國は遂に本國なるバルチック艦隊三十餘艘を派して我艦隊と戦はんとせり。五月二十七日は即ち此大海戦のありたる日にして露國の艦隊及日本の艦隊は日本海に於て大海戦を開始し遂に我が忠勇なる東郷艦隊の迎撃する所となり敵艦多くは撃沈せられ或は捕虜となりて遂に我東郷艦隊の爲めに塵滅せらるゝに至りたる也。而して此時旗艦三笠の艦上高く掲げられたるは即ち左の信號なり

皇國の興廢此の一戦にあり各員奮勵努力せよ

之れ實に東郷大將の命令なりし也。我海軍はよく司令長官の命を奉じ包圍して敵艦を撃沈し世界大戦に於て特筆すべき大捷を得たる也。

ア、東郷大將の沈勇と術策と忠勇とは遂に我海軍の將卒をして此の如き快報を得せしめ之によりて我軍は大に振ひ帝國の國威は永く東洋の天地に輝くことを得たる也。是れ實に上は天皇陛下の御稜威の然らしむる所とは云へ海軍將卒の忠勇なる精神に基ぐに因らずんばあらず。

生徒諸子諸子は此海軍記念日にあたり常に東郷御大將の忠勇なる精神に感謝の意を表し將來軍人となりたる時は必ず義勇奉公の精神を以て邦家のために盡す所なかるべからざる也。又軍人とならざるものも常に此の精神を以て實業を勉勵し以て平時に於ける無形

の戦争に於て大捷を得るの心掛なかるべからざる也。

第四回 運動會に關する訓話

運動會を舉行する筈につき諸子に一言すべし。運動會も校外教授と同じく、學校全體の兒童が廣い場所に集りて合同體操をなすものにして決して父兄其他人々のために見せ物にする所以にあらず。諸子も亦之を以て一種の面白半分に心得るが如きは、大なる誤なり。學校内の運動場にありては、場所狭きがため多數の兒童が一時に運動をなすことを得ざるのみならず、他の學校兒童との運動の比較をもなすこと能はざる也。然るに今回舉行する運動會の如きは、本校兒童全體の運動をなし得るのみならず、他の學校との運動規律の比較をもなし得るを以て甚だよき都合となるもの也。勿論春秋二季の運動會

の如き一は時候の關係上校外に於て運動をなす時は精神及身體上に非常なる好果を與ふるにより之を施行するものにして、別に他の理由あるものにあらざる也。余は本日運動會を舉行するに就き諸子に一大注意を促さんとす。第一に心得べき事は、運動會場に於ける規律是也。規律は體操科の目的と離るべからざる關係を有するものにして、規律なき運動會は所謂烏合の衆にして、其の成績としては劣等に位するもの也。而して此の規律は、單に體操又は競技をなす場合に於て必要なのみならず、觀覽席に於ける兒童に於ても特に必要なるもの也。其の他遊歩時間、運動開始、運動終止の場合に於ても常に此の規律を忘るべからざる也。運動に規律ありて初めて其の運動に價値あるを知るべき也。

第二に必要なは、凡ての運動に元氣ある事也。元氣は外形にあらは

れたる亂暴なる舉動を指すものに非ずして則ち精神的の元氣をいふ也。而して此の元氣を發揚せんには精神の充實と眞面目とを必要とす。精神充實せず眞面目ならざる者は決して眞正の元氣を發揚する事能はざるもの也。

第三に心得べき事は禮讓是也。凡そ如何なる場合にありても此の禮讓心の發現如何によつて其の人の人格を知る事を得べく禮讓なき運動競技は野蠻的の行動たるを知るべし。文明的の行動は凡て禮儀を必要とす。然るに運動會に於ては往々此の禮讓の念を缺き他を誹謗し或は卑劣なる行動を敢てして勝利を得んと企つるが如きは實に見下げ果てたる了見といふべし。諸子は運動會を舉行するに當り是等の注意を忘るべからず。

第六月

第一回 保護者懇談會に關する訓話

保護者諸君本日は御多忙の處御來校を辱ふし實に感謝の至りなり。本日は兒童教育上保護者諸君の御參考の爲に聊か卑見を開陳せんと欲する也。諸君も知れる如く兒童は實に天真爛漫の活動性を有し、善くなると悪くなるとは眞に父兄及學校の責任にある也。則ち家庭教育と學校の教育とは最も重大なる責任を有するもの也。尙其の他に社會教育と稱して社會の感化を受くる事あれども學校教育と家庭教育とにして完全なる時は反つて之を善用し又利用する事を得べき也。多數の兒童中には天性材能を有するものと比較的材能なき

ものとあれども何れも家庭教育と学校教育とによつて適當に之を教養する事を得べきもの也。此の故に学校教育と家庭教育とは恰も車の兩輪の如く鳥の兩翼に異ならざる也。其の一を缺ぐときは決して完全なる教育と稱する事を得ざる也。例へば學校内にありて如何によりき兒童と雖も家庭にありては却つて悪しき兒童たる事あり、又家庭にありて善き兒童も學校に於ては悪しき兒童たる事なり、又學校に於て教育せる方針と家庭に於て教育せる方針と或は其の主義方法を異にする事あり、或は家庭の注文と學校の教育と一致せざる事あり、或は學校の注文と家庭の教育と一致せざる事あり、此の如く學校と家庭と各々異りたる教育を施す時は其の効果は決して見る事を得ざるもの也。學校と家庭と一致して初めて兒童をして完全なる教育を施す事を得べき也。

本日は兒童の教育上保護者諸君に注意すべき事項を印刷して配付し置きたる通り、其の懇談の要項は約二十條項もあれども要するに學校教育との連絡を計るにあるを以て、保護者諸君に在りては其の意味を以て熟讀玩味して學校教育の意志のある所を看取し以て家庭教育の参考に資せられん事を望む。尙各保護者にありては兒童の身上又は身體上の件に就き何か御懇談を要すべき事項あらば御遠慮なく各擔任訓導に御申出あらん事を望む。此の如きは實に兒童教育上最必要なる事にして、今日の如き機會を利用して學校と家庭との意志の疎通を計るは實に教育上必要の事と信ず。幸に其の意を諒せられん事を望む。

第二回 鎮守祭に関する訓話

本日は鎮守祭に就きて一言すべし。鎮守祭とは其土地の神社の祭日にして、諸子は生れ落ちて直に其土地の神社に参拜し又年長じたる後も毎年其の鎮守祭の日には其の神社に参拜するなるべし、昔より我日本國は神國と稱し八百萬の神を祭り以て祖先を崇拜し來りたり。此の心は實に崇高なる精神にして此の心あり初めて我國の國民道德を維持する事を得べき也。諸子の家族又は祖先の靈は實に此の神となりて發現し居る也。

特に諸子に注意すべきは我國の神にして我國に於ける神社は何れも、其の昔の時代に於て人民のために功勞あり又崇敬を表せらるべき人々にして決して外國に於ける迷信的の神體と同一視すべきものにあらざる也。即我國の郷社又は神社に於て祭られ居る神様は何れも我等のために非常なる慈愛を垂れて人民を救ひ玉ひたる人々

なり故に我等は是等の神々に對しては決して尊敬の念を忘るべからざる也。而して今日我等が無事にして道德を無視せず以て世を送る事を得るは即ち神の力による也。神は實に我等のために救世主となり以て世道人心を導き悪人をして善人たらしめ常に勸善懲惡を施し以て刻々の裏に人間の心靈に輝ける道の光を與へさせ給へる也。故に諸子は鎮守祭に限らず平日に於ても常に神社を崇敬し尊崇し以て苟も不敬の行爲あるべからざる也。昔より神に對して不敬を働くものは必ず大罰を受くといへり。是豈に恐るべき次第に非ずや。小學校に於て年中大祭日の他、此の鎮守祭に學校の授業を休止する所以は即ち此の意味に外ならざるを以て諸子は鎮守祭の日に於て單に祭禮のために學校を休み飲食物を恣にし以て觀樂を得んどのみ思惟するは大なる誤なり。故に諸子は鎮守祭の日にありては濟戒

沐浴して以て神社に詣て以て敬神の意を表し以て自己の精神界に新しき光を浴せざるべからざる也。終に臨みて注意すべきは御輿擔き之也此の風は昔より行ひ來りたるを以て之を廢止するの必要なきも祭日外の日にも學校を缺席して御輿を擔ぎ或は不體裁なる行動をなして風俗を懷亂するが如きは甚だよろしからざるにより深く注意せざるべからず。

第三回 夏期の衛生に關する訓話

諸子、衛生の必要な事は申迄もなき事なるが、特に夏季に於ては其の必要を感じるもの也何となれば一年中夏季には最も病毒の發し易き時機にして人間も亦夏季に於て最も衛生の注意を怠るの時機なれば也。苟も人にして衛生に注意せざらんか其人の身體は忽ち

にして病魔の侵す處となり遂に生命を全ふする事能はざるに至るもの也。故に人が其事業の成功を期せんには常に身體の健康に留意する事最肝要なりとす。身體健康ならざる時は如何に智識あり如何に材能ありとも遂に之を施すの機會なきに至るべし。

諸子は今小學兒童となりて學校に昇校し常に教授を受けて學科を勉強しつゝあるの人々也。而して其の目的とする處は小學校を卒業して有爲の人物となり他日國家有用の人たらんとするにある也。然るに此の如き大なる責任を有するものにおいて苟も衛生に留意せず之が爲め病魔に襲はれ遂に生命をも失ふが如き事あらんか之實に忍ぶべからざる事なり。特に小學校時代に在りても學科を勉強し操行を良くし良き成績を得んと欲せば常に身體の健康に留意する事必要也。如何に材智あり學問ある人も身體健康ならざる時は遂に

は他の人に勝利を得らるゝに至るもの也。故に今日の世に在りては學問德行は無論大切なれども之と同時に身體の健康は更に必要なりとする也。身體健康ならざれば如何なる學問德行も其用を成さざるに至るもの也。特に激甚なる生存競争の世にありては第一に此の身體の健康を計り努力的奮進的精力的人に非ざれば生存を完ふする事能はざる事情あり。故に諸子は常に此の意を體して特に夏季に於ける衛生に注意するを要す。

夏季に於ける注意事項は本日配付せる印刷物に明なるを以てよく之を朗讀して更に擔任訓導によりて其の精細なる注意を會得し更に家庭に持ち歸りて父兄の注意を拜聽するを要す。學校に於ては此の如く諸子の身體及身上に就いて懇切なる注意を與ふるにより諸子はよく學校より注意したる事項を忘れず毎日々々之を朗讀して

衛生上の注意を怠るが如き事あるべからざる也。夏季に入りて缺席の多きは多くは之等の原因による事多し。諸子は一層個人及公衆衛生の注意を怠るべからず。

第四回 學校内の規律に關する訓話

時候が暖くなるにつれ自然學校内に於ける諸子の規則も亦亂れ來りたるものゝ如し。夏季は一般に世間に於ても其の風紀など亂れ勝ちなるものにして、一は時候の關係上人間の精神上に及ぼす影響より、知らず不規律に流れ易きものにして、世間の犯罪人又は墮落の人は多くは此の時季に發生するもの多しとす。故に學校内に於ける一般規律の如きも自然に此の影響を受けて不規律に流れ易きもの也。例へば上校及下校の際の規律の如き或は又始業前運動場に於け

る規律の如き其の他整列の場合の如き教室出入の時の如き尙教室内に於ける姿勢及教授に對する注意力の如き或は又學用品の出入掃除、當番の規律、廊下通行の規律の如き、其の他諸子の服装、容儀、禮節等に至るまで凡て惡影響を受けて大に墮落的の傾向を呈するに至るもの也。特に兒童教育上最大切なる精神界の意氣消沈し少しも進取的の氣象なきが如き實に警戒を要すべきもの多しとす。此の故に諸子は知らず知らず一事一物爲す處言ふ所凡て不規律ならざるはなきに至る也。余が本日茲に諸子に訓話せんとする所以は之等の惡影響を排除して意氣活潑にして進取的なる兒童たらしめんと欲するの意志に外ならざる也。凡そ人は其人の覺悟と決心とによりて遂には自然力をも制服する事を得べきもの也。例へば夏季に入りても各々其の決心する處あり覺悟する所ありて、決して不規律又は墮落

の淵に沈淪せざらんと決する時は多くは之を排除し得るに至るもの也。斯の如くにしてはじめて茲に人間の價値を發見する事を得べき也。四圍の爲めに壓服せられ征服せられ感化せられ墮落するものは人間として價値なきもの也。諸子は此の夏季に於て却つて自然力を制服し壓服し以て之を統御して決して墮落の淵に沈むが如き事あるべからざる也。

特に教室内に於ける姿勢、教授に對する注意力、整列行進及教室の出入、服装、容儀より體操の時間に至るまで勇氣を鼓して真正なる人間の價値を發揮し以て常に規律的習慣を養成し進んで自然力を征服するの覺悟なかるべからざる也。學校内に於ける規律は諸子の學業及操行に大なる關係あるものなるを以て常に之が修養を忽諸に附すこと勿れ。

第七月

第一回 七月中に於ける心得に關する訓話

諸子、光陰矢の如く本學年に入りてより已に三ヶ月を經過し本月は第一學期の最終の月となれり。諸子學校の學期は之を三つに區分し第一學期第二學期及第三學期の三つとなせり。而して第一學期は四月より七月迄、第二學期は九月より十二月まで、第三學期は一月より三月までにして、諸子は本學年度に入りて將に第一學期を終らんとする也。而して今諸子の第一學期中に於ける操行及學業の成績を考ふる時は比較的に良好なりしと雖も未だ諸子に注意し訓戒すべき事頗る多しとなす。諸子は此の第七月即ち第一學期の最終の月に於

て一層勉勵し以て第一學期の終を完ふせん事を望む也。諸子、如何なる人も日に進み月に進みて完全なる域に進むが如く諸子の學業も亦之と同じ、諸子は第三學期の學年末に於て良成績を得んとならば第一學期の末に於て成績の優良を得るの心掛なかるべからざる也。第一學期に於て最良の成績を得ざるものは第三學期の學年末に於ても最良の成績を得る事能はざるもの也。特に七月は時候が次第に暖くなるを以て學校の授業時間も短縮せられ學校の授業日數も僅々三週日位に過ぎざるを以て特に注意して學科を勉強するの覺悟なかるべからざる也。又第七月中に於ては第一學期の成績品展覽會を開會する事となり居るを以て今日より其の心掛を必要とする也。諸子の學業の成績は此第一學期の展覽會に於てよく比較しよく其の優劣を見る事を得べき也。成績品の展覽會は其の成績決して一時

的のものに非ずして平日の結果を見るべきものなるを以て諸子は
平日常によく教師の命を守り書方、圖畫、手工、其の他の學科に至るま
でよく勉強する所あるを要す。開會に際して急に其の優良の成績を
得んと欲するが如きは決して望むで得べからざる事也。

又授業時間の短縮の如き其の理由とする所は全く諸子の身體上及
精神上の關係によるものなるを以て、諸子は此の短縮せられたる理
由を考へて、一時間一分間の授業をも決して忽にせず、よく教師の教
授に注意し以て善良なる成績を得ん事を望まざるを得ざる也。又七
月中に於ては諸子の精神界に隋氣を催すの時節なるを以て是等は
諸子が常に諸先生より訓話せらある事項を顧み決して墮落して不
規律に流るゝが如き行動なきを要す。

第二回 祖先崇拜に関する訓話

本月は孟蘭盆會の月なるを以て祖先崇拜の事につきて訓話すべし。
我國は昔より祖先崇拜の美風ありて祖先の靈を祭り祖先の位靈を
尊崇するの習慣あり、是實に國民道德の教養上最大切なる事なり。何
となれば我國體は外國の國體と異なり皇室は一大宗家にして我國
民は凡て其の支家なるを以て祖先崇拜の念は則ち我皇室と大關係
を有するものたるを以て也。我等は常に自己の祖先を崇拜し更に進
んで民族の宗家たる皇室を尊敬せざるべからざる也。祖先を崇拜せ
ず皇室を尊崇せざるものは日本國民に非ざる也。此の意義に於て孟
蘭盆會の益々價値ある祭禮たる事を知るべき也。

昔より我國には祖先崇拜の念盛なりしが、佛教渡米後は更に孟蘭盆

會となりて、七月には祖先の靈を祭る事となり、全國一般に此の儀式を實行し來れり。是實に國民道德と離るべからざる關係を有するものにして、如何なる家に在りても一たび不幸にして歸らぬ人となりたる時は其の悲は如何ばかりぞや。我は慈愛深き嚴父を失ひ或は親愛なる母を亡し或は其弟姉妹親戚知己等凡て自分と直接の關係ある人々を失ひたる時は、如何なる人も人情として其人の靈を祭り亡き人を弔はざるものはあらざるべし。是實に人間として至情の發露と云ふべし。

此の如く我等は常に亡き人を以て毎年七月には其墓地を清め祭壇を設けて、其靈を祭る事となり居る也。之等は則ち祖先崇拜の崇高なる觀念の發露せるものにして實に美はしき道の光たる也。然るに世には孟蘭盆を以て一種の御祭騒ぎをなし、て俄踊をなし、或は飲食物

を供へて自己の腹を樂ませんとするものあるが如し、是實に心得違の甚しきものなり。諸子はよく此の祖先崇拜の眞意のある所を察しよく祖先の靈を祭り、墓地に參詣し自ら沐浴して、自分は祖先の孫也。祖先の遺志を奉じて決して家名を汚さざらん事を誓ひ、以て祖先に對し、次に盡す所なかるべからざる也。是實に子孫として祖先に對して盡すべき義務たり本務たる也。此の故に學校に在りては事苟も祭禮に關するが如き日には決して諸子が學校の授業を休止するも厭はざる次第也。

第三回 夏季休暇中の心得に關する訓話

41 諸子、來る七月二十一日より向ふ四十日の間學校は夏季休暇を課する事となり居るを以て本日は休暇中に於ける諸子の心得につきて

訓話する所あるべし。

夏季休暇は夏季中時候の關係により學校の授業を休止するものにして、其の目的は全く諸子の精神及身體の休養にある也。此頃のやうに暖氣甚しき時節に無理に精神及身體を過勞する時は遂には疲勞を生じ其の結果は精神及身體上に異狀を來し恐るべき結果を生ずるに至るべし。是れ小學校に於て特に夏季休暇の設けある所以也。故に諸子は此の夏季休暇中は精神及身體の休養を計り、益々身體の健康を保全するの道を講せざるべからざる也。而して身體及精神を保全するの道は或は海水浴なり或は旅行なり各自に思ふ儘に之を行ふも差支なしと雖も徒らに世の風潮に驅られて、止むを得ず海水浴場に赴き或は旅行を企つが如きは深く戒めざるべからざる也。特に近年都會の風として往々此の見榮を飾るために旅行し或は海水浴

場に赴くものあるは實に痛はしき事也。諸子はよくこの意を體し決

して此の如き企をなすが如き事あるべからざる也。

次に諸子に注意すべきは此休暇中に於ける諸子の心得是也。以上述べ來りたるが如く夏季休暇の目的は精神及身體の休養にあるを以て毎日毎日朝から晩まで一の復習もせず一の勉強もせず、萬事休養主義を實行するあらんか是實に心得違の甚しきもの也。夏季休暇は此の如く四十日間無駄遊をせよといふにあらず、精神及身體上の休養を計るにあるを以て、毎日朝の涼しき時間には其日の時間を定めて復習する中肝要也。又休暇中は毎日々々其日の日誌位は怠りなく之を記入して自己の反省をなすを要す。其の他家庭の都合によりては或は家事の手傳をなし、作業をなす等の事は最必要なる也。然れども亂りに氷水類の飲用をなし或は裸體になりて健康を害し晝寢を

なし其他活動寫眞等遊藝場にのみ出入して學科の復習を顧みざるが如きは宜しからず。夏季休暇中に於ける精細なる心得は本日配付せる印刷物に明なるを以て諸子は毎日毎朝之を見て決して此の如き不衛生の行爲あるべからざる也。余は諸子が他動的に非ずして自動的に衛生を重んじ身體の健康を増進せん事を望む。

第四回 第一學期終業式に關する訓話

諸子、本日は第一學期の終業式なり。諸子が四月より七月までの間に於て學び得たる成績及行ひ來りたる操行につきて之を顧るに何れも相當の成績を得たるは余の満足とする所なり。諸子は四月のはじめ余が諸子に向つて一大警告を與へたる事を記憶すべし。則ち諸子の學業及操行の如何は四月の第一學期より其の決心を以て猛進す

べき事を告げしが幸にして諸子はよく余の注意に對して相當に之を行ひ來りたるは實に余の喜ぶ所也。

四月の始より今月までの間に於て余の訓話せし事項は頗る多かりしも諸子はよく余の訓話に對して十分に之を實行し來りたるは兒童として最も價值ある行といふべし。而して其間に於て行ひ來りたる學校の事業としては校外教授、運動會、保護者懇談會、學藝品展覽會等なりしが何れも諸子の十分なる勉勵によりて相當の成績を收め得たるが如し。即校外教授の成績は比較的良好にして、本年度の校外教授は昨年に比して優に其結果の良好なりしを信す。諸子は是等の結果を善用して自己の修養に資する所あるを要す。現に本年度の運動會の成績の如きも、其の當日概評をなしたるが如き諸子がよく余の訓話の眞意を體し以て、よき成績を得たるは余の實に愉快とする

所也。次に保護者懇談會の如き何れも多數保護者の出席を得て、學校と家庭との連絡をはかり意志の疎通をなしたる事少からず、其の結果は直ちに諸子の學業及操行の上に善良なる結果を現し來りたるを見る也。其の他成績品展覽會の如き各學年とも相當の成績品を陳列し何れも優劣なき程度までに其好結果を得たるは余の實に愉快とする所也。特に書方、圖書に於て其成績の優良なりしは實に本校の名譽として之を誇るに足る也。

諸子よ以上は何れも其成績の優良にして而かも良結果を得たる事項のみに就いて之を訓話せしが、諸子の教授に對する注意力の集中、學力の不足、教室内に於ける姿勢、其の他校内に於ける規律的行爲につきては未だ不滿の點少からず、之等は諸子に向つて更に一大反省と猛省とを希望せざるを得ざる也。余は本日第一學期の終業式に際

し聊か一言を呈したる所以也。



第二學期

第九月

第一回 第二學期始業式に關する訓話

諸子、諸子は此の四十日の夏季休暇中に於て或は海邊に海水浴を試みたるものもあるべし。或は又青山白雲の間に逍遙して旅行の樂をなしたるものもあるべし。或は家事の手傳をなして父母の手扶をなしたるものもあるべし。諸子は此休暇中學校の生活を離れて各自由なる生活を試み種々得る所多かりしを信す。

諸子も知れる如く夏季休業は全く諸子の精神及び身體の休養にありしを以て諸子は必ず此の目的を以て長き休暇を利用したるなる

べし。余は今此の境上に立ちて諸子の顔色其の他身體等一般の狀況を見るに何れも休暇前に比して色黒々となり、體格も強壯になりたるやうに感せり。其の他身體の發育等頗る肥滿せるに似たり。是れ實に余の愉快とする所也。諸子、余は常に諸子に訓話せし如く人として何より大切なるは身體の強壯にある也。如何なる學識才能も身體健康ならざれば之を利用する事能はざるもの也。故に人にして第一に注意すべきは身體の健全にある也。

古より健全なる精神は健全なる身體に宿るといふが如く心身の關係は離るべからざるもの也。諸子は此休暇中に修養し靜養したる健全なる身體と精神とを以て此第二學期に於ては第一學期より更に勇猛なる精神を以て奮勵努力する所なかるべからざる也。第二學期に於ける諸子の學習すべき教科は第一學期に比して更に一層複雑

となり困難となり居るを以て諸子は此の心得を以て専心に教師の教授に留意し以て良成績を得るに努めざるべからざる也。

幸にして九月は秋氣清く時候もだんく涼しくなるを以て諸子が勉強するには實に好時機なりといはざるべからず。小學校に於ける第一學期第二學期等其時節の關係を考察する時は第二學期は最も勉學に好都合の時也。一年中最も勉強するによき時也。寒からず暑からず孜々勉強するは則ち此の時にある也。諸子は此長日の間學校より配與せられたる休暇日誌は各々怠らず必ず記載したるなるべし。諸子が休暇中の消息は此日誌によりて窺知すべきを以て諸子は明日中に各擔任教師に提出する所なかるべからざる也。而して其成績は調査の上更に諸子に發表することゝすべし。

第二回 學用品の準備に関する訓話

諸子が毎日學校に昇校して教授を受け學科を學習するに最必要なるは教科書及學用品にある也。然るに諸子は往々此の最も必要なる教科書及學用品を忘るゝ事あり、之が爲に折角上校したる兒童も授業の學習をなす能はず、空しく時間を費すに至る事あり。是實に兒童として第一の準備を怠りたるものにして、其の本分を忘れたるものといはざるべからざる也。學用品及教科書が小學兒童に必要な事は申までもなき事にして、恰も軍人が戰場に臨んで軍器を忘れたるに等しく、其の愚實に笑ふべき次第なり。小學兒童が教科書學用品を忘れたるは恰も彈丸なき戦争の如く、兒童は如何にして自分の學習をなすことを得べきか、實に驚かざるを得ざる也。是が爲めに其の兒

童が學科を學習するを得ざるのみならず、他兒童にまで惡影響を及ぼし管理訓練上甚だ好ましからざる結果を來すことある也。特に甚しきは兒童教育の中心たる修身教科書を忘れ來るが如き不心得の最も甚しきもの也。其の他鉛筆、雜記帳、草紙、手拭、鼻紙、雜巾等往々忘れ來る事あり之等は實に迷惑の次第にして實に兒童教育上閑過すべからざる一大問題なりとす。思ふに諸子が此の如く毎日要すべき學用品を忘るゝ所以は全く準備の不足より來るものにして如何なる事業も準備を完全にせざれば決して成功する事能はざるは諸子もよく之を知れるなるべし。食事をなさんとして食器なき時は如何にすべきか、電車に乗らんとして切符なき時は如何にすべきか、汽車汽船に乗らんとする時賃錢なき時は如何にすべきか、是等の事件を考へ來る時は準備が如何に必要なるかは云はずして明なるべし。而し

て諸子の毎日學校に要すべき教科書及學用品は大概定まりあるものにして、特に二年以上の兒童にありては毎日の時間表によりて前以て之を知る事を得べき也。然るに諸子は往々にして一學級中少くとも三四人の學用品を忘るる兒童あるは全く諸子の不熱心、不注意、不心得の致す所なりと云はざるを得ざる也。

余は諸子に教科書及學用品の準備をなすに就き特に諸子に注意を與へんと欲す。何ぞや則ち諸子は學校より歸りたる時及學校に昇校する前には必ず一回時間割を見て其の必要な教科書及學用品の準備をなす事是也。此の如くする時は諸子は決して學用品を忘れて教授を受くる能はざるが如き事はなかるべき也。

第三回 遠足運動會に關する訓話

本月下旬頃遠足運動會を舉行する筈に就き本日は其心得につき一言する所あるべし。遠足運動會は所謂遠足的に運動を舉行するものにして其の目的とする所は校外教授と異なり全く兒童の運動を主とし身體の健康を増進するにある也。而して之と同時に平日諸子が學校にて學びつゝある體操科の實地演習を試み筋肉の發達及規律的習慣の試験をなすにあるものにして行進及隊伍の整頓、解散、集合等の練習を目的とする也。故に諸子は遠足運動を舉行するに當りては、教師の命を奉じ常に規律的の行動をなすを必要とする也。而して之と同時に最大切なるは忍耐力及相互の協同一致の精神を發揮し團體的徳目に關する修養をなすにあるを以て、遠足運動會に際しては諸子はよく此の意の在る所を忘れざるやうにし、以て之が目的を達するに努めざるべからざる也。故に其舉行の當日は申迄もなく、其

服装容儀、準備等は別に華美を競ひ兒童の本分を忘れざるやうに注意する事必要なり。其の他出發時間の規律の如き、途中行進の規律の如き、凡て校外教授以上の成績を收むるに注意せざるべからざる也。則ち校外教授は校外に於て自然物を觀察し以て教授を受くるにあれども、遠足運動會は遠距離の地に運動して其の筋肉を鍛練し以て規律的の習慣を養成するに在るを以て、校外教授の場所以上の遠地に旅行する事となるべし。

然れども之と同時に其の副目的は同じく校外に於ける自然物を觀察し併せて之等の研究及直觀的材料を得るに在るを以て、第一の目的たる體育上の鍛練と同時に第二目的たる校外的學習をなすことも亦必要なりとす。其他秋の野に遊びて草花を眺め或は自然物を觀察して浩然の氣を養成するが如きは亦大に價值あるもの也。要

するに遠足運動會も校外教授と同じく決して物見遊山の考を以て之をなすことなく一日の運動をして百日の體操練習以上に効果あらしめ一日の遠足を以て千日以上以上の學習以上に効果あらしむるは全く諸子の心得の如何に依るものなれば諸子はよく此の心得を以て益々其結果を有效ならしめん事を望む。

第四回 兒童の禮儀に關する訓話

本日は兒童の禮儀に就きて一言すべし。禮は一生の一大事にして禮儀を缺くものは人間として排斥せられ禮儀の念の發現如何によりて其人の價値を定むる事を得るものにして古より人にして禮なきは禽獸に同じなど云つて禮を以て人間の最も尊ふべき作法の一とせる他。

諸子の近頃上校及下校の際に於ける敬禮の仕方及其整列其他朝禮の際に於ける禮の仕方其他教室內及校外に於ける禮の仕方を見るに未だ精神的の眞情至誠の發現と見るを得ざる場合頗る多きが如し。例へば上校の際に於ける敬禮の如き或は外套又はコートを用ひながら教師に對して敬禮をなすものあり或は手袋襟巻を用ひながら禮を爲すものあり甚しきに至りては下駄を手にしながら敬禮をなすものを見る也。或は敬禮をなすものも其の敬禮の仕方よりしからず其態度甚だ輕卒なるものあるは實に見苦しき次第也。其他廊下通行の際教師に對して爲す敬禮の如きも其作法に適せざるもの又少からざる也。特に毎時間解散の時の敬禮の如き單に器機的に頭を下ぐるに過ぎずして至誠より出でたる敬禮と見るべからざるものあり。或は朝禮の際の敬禮の如きも無意識的に敬禮をなして敬

禮者に對して敬意を表せざるが如きは往々見る所なり。是等は全く敬禮の目的及敬禮の作法を知らざるものにして小學兒童としての一大缺點たるのみならず、人間として實に恥づべき次第なりとす。諸子は爾今より敬禮をなす所以につきて深く自ら考へ以て相當の敬意を表せざるべからざる也。敬禮をなして敬意を表せざるは寧ろ敬禮をなさけるを以て勝れりとなす也。余は諸子が一日も早く自ら反省して自ら過を改め善に移る事を望む也。

特に校外に在りて教師に對して敬禮を厭ひ或は敬禮を避けんとするものあるが如き、或は敬禮の作法の其の當を得ざるものあるが如きは深く注意するを要す。其の他一學年位の兒童にありては却つて敬禮を重んじたる結果途中に於ても教師の面前に進み來り或は遠方から追かけ來り敬禮をなすものあるが如きは少しく注意して相

當の方法を以て禮をなす事肝要也。余は諸子に特に此の注意を促したる所以也。

第十月

第一回 十月一日に關する訓話

諸子、九月一日第二學期の始業式を舉行してより已に一ヶ月を経過したり。諸子は始業式の日に於て余が諸子に訓話したる事項を記憶するなるべし。第二學期は實に時候も好く諸子が勉強するに最よき時節なる事を訓話したりしが、其後諸子の學校内に於ける状態を見るに第一學期に比して頗る善き傾向を示しつつあるが如し。例へば九月中諸子の出席歩合は七月に比して遙かに成績よろしく、又遅刻

の歩合も亦頗る良成績を示せり。是等は全く諸子がよく余の訓話せる主旨を遵奉したる結果たるべきを信ず。而して本校全般に就きて其統計の結果を見る時は勿論優劣の差はあれども全體の上より見る時は頗る好成績を示せる也。

諸子本日は十月一日にして九月より尙一層時候も涼しくなり。所謂秋冷ともいふべき年中の好時節なるを以て諸子は九月に勉強せし考を以て此十月にも亦九月に劣らざる良成績を得るに努めざるべからざる也。凡て何事をなすにも忍耐勉強せざれば決して其の成功を見る事能はざるが如く、學校の成績も亦之と同じ。諸子は九月に於て成したる忍耐勉強の精神を忘るゝ事なく、之を永續して益々其の成績をよくするに努めざるべからざる也。今日は成績よろしくとも明日は成績悪しく、昨日は成績よろしくとも今日は成績悪しきとい

ふが如きは人間として價値なき行たる也。人の價値は常住不變の裏にはじめて其人の品性を認め得べきもの也。故に諸子は此十月に於ては更に一層奮勵を以て九月以上のよき成績を得るに努めん事を望む。出席の歩合は則ち學術の上進を意味するもの也。又九月中に於て比較的成績不良なりし學年は十月に於ては其の名譽を恢復し、成績優良なりし學年は永く其の名譽を維持して、益々其の光を發揮せん事を望む。要するに十月は年中最も勉學の好時節にして再び來らざるべきを以て諸子は此の意を忘るゝ事なく、猛進して勇を鼓して諸子の成績を優良ならしめん事を望む。

第二回 戊申詔書に関する訓話

本日は戊申詔書を下賜せられたる記念日につき其の御主旨に就き

て一言すべし。

戊申詔書とは明治四十一年の十月十三日に下賜せられたる御勅詔の事にして、四十一年はちやうど曆の戊と申との年にあたりたるを以て之を戊申詔書と稱する所以也。

明治天皇は常に御心を人民にまで御注がせられ、さきには明治二十三年十月三十日に教育勅語を下して國民の依るべき道德の大本を示し玉ひしが、戊申詔書は之と相對して國民一般の心得につきて御訓戒せられたるもの也。而して此戊申詔書の御意義は國民に勤儉の徳を御諭し玉ひたるものにして、人は勤と儉とによりて世に立ち人と交はらねばならぬ事を御示し玉ひたる也。勤とは働くことにして、則ち勉強する事なり。儉とは儉約する事にして、則ち無駄の費用をつかはぬ事なり。人は勤と儉とありてはじめて人間の本分を完ふする

事を得るものにして、勤ありて儉なければ其の勤は何等の價值なく、又儉ありて勤なければ其の儉徳完からず兩者相待つてはじめて其徳を完ふするを得べきを以て、明治天皇は特に此の兩者の相待つて缺くべからざる事を示し玉ひたる也。

而して日露戦勝後は國民一般に戦勝の譽に心酔し國民一般に華美に流れ、或は元祿風の勃興となりて世は華美を競はんとし人心滔々として太平の夢を貪らんとせり。明治天皇は大に之を心配し玉ひて、此の如きは決して戦勝の榮を全ふする所以にあらざる旨を諭し玉ひ、茲に戊申詔書を下し玉ひて一般の奢侈を警告し玉ひたる也。爾來國民は幸にしてよく此の詔書の主旨を奉戴して勤儉にしてよく勉勵せしかば幸にして戦勝の宗を全ふする事を得たる也。

諸子は今小學兒童の身分にあるを以て、一層此の勤儉の御主旨のあ

る所を奉戴し以て陛下の御恩に酬ふる所なかるべからざるなる也。例へば學校に上校したる上はよく師の命を守りて孜孜として勉強するは則ち勤にして、學用品を濫用せざるは則ち儉を守る所以也。諸子之を諒せよ。

第二回 兒童の自治心に關する訓話

自治心は立憲的國民として最も必要なものにして自治心なき國民は立憲國民として資格なきもの也。立憲的國民の第一要素は則ち此の自治心の教養にある也。諸子は今小學兒童となりて政治に關係するにあらず、然れども諸子は將來必ず國民となりて立憲的政治の下に活動せざるべからざる運命を有するもの也。而して之が要素を修養するは則ち小學校時代にある事を知らざるべからざる也。

小學校に於ける自治とは政治的の意義を有するものにあらず、諸子が學校内に於ける規律其の他の行動を自ら行ふにあるものにして、則ち教師の教を待たず、教師の指揮監督を要せずして、自ら之を行ふものにして、之れ則ち諸子の自治なり。例へば各學年各學級に於ける級長及副級長の選舉の如き是等は則ち純然たる自治制度にして、國民が代議士を選舉すると何等の撰ぶ所なき也。諸子は級長及副級長を選舉するに當りては決して情實を夾まず其人の人格に重きを措き、一學級の級長として適任なるや否やを考へて之を選舉するを要す、級長の善惡は則ち其學級全體の良否に大關係を及ぼすに至るもの也。故に諸子は級長として第一其の人の操行、學力、體格等を考へて優良なる人物を選舉するに努めざるべからざる也。而して又是等の選舉によりて名譽ある選舉を得たるものは能く其の學級全體の爲を

思ひ決して我儘にして高慢なる行動あるべからざる也。何となれば級長は則ち其の學級全體の代表者たるを以て也。而して此の如く級長あり副級長ある學級は茲にはじめて自治的團體の性質を形成するものなるを以て、何事も教師の指揮監督を待つて活動するが如き事なく、自ら治めて自ら働き以て校規を遵奉する所あるを要す。而して其の一舉一動は則ち小學兒童としての本分を守り、校紀の振肅規則の遵奉を以て第一義とせざるべからざる也。

其の他上校下校の際の規律の如き、廊下通行の規律の如き、教室内に於ける規律の如き、或は校外教授の場合に於ける規律の如き、或は遠足運動會に於ける規律の如き、毎時間の整列の規律の如き、或は運動會及祝祭日儀式に於ける規律の如き、凡て各自の本分を守りて自治の行動をなすを要す。人間の價値は依立的行動にあらずして、自立的

行動にある事を忘るべからざる也。自治は則ち立憲國民の要素たるを忘るゝ勿れ。

第四回 教育勅語に關する訓話

諸子、本日は教育勅語を下し賜はりたる記念日也。教育勅語は則ち教育に關する御勅語にして之を發布下賜せられたるは明治二十三年十月三十日即ち明治天皇の御世なりし也。明治天皇は實に叡明なる御方にして深く教育に大御心を惱ませ給ひ、維新以來我國民が西洋文物の制度に眩惑せられ一も西洋二も西洋と稱し、政治、道德、宗教、教育に至るまで凡て範を西洋に取らんとし、男女同權、人種改良等其の結果は我國の國體をも變更し以て共和政體を布かんとしたる也。是實に維新以來に於ける我國の精神界の擾亂期にして人心動搖して

其の依るべき所を知らざるに至らんとせり。明治天皇は深く之を心配し給ひて茲に教育勅語の下賜を見るに至りたる也。

諸子は、大祭祝日儀式等の場合に必ず勅語を拜讀するを以て已に幾度か其の御主趣の在る所を知れるなるべし。即ち勅語の御趣旨は國民道德の大本たる忠孝の道にして我等國民は君に對して忠、親に對して孝、則ち忠孝一致以て我國民の道德を完ふせざるべからざる也。此の忠孝の道は則ち父母に孝に、兄弟に友に、夫婦相和し、朋友相信じ、共儉己を持し、博愛衆に及ぼし、學を修め、業を習ひ以て智能を啓發し、徳器を成就し、進んで公益を廣め、世務を開き、常に國憲を重んじ、國法に遵ひ、一旦緩急あれば義勇公に奉じ以て天壤無窮の皇運を扶翼するにある也。

諸子は何事をなすにも常に此の勅語の御趣旨を奉戴し以て善良な

る兒童となり、以て有用の國民たらん事を期せざるべからざる也。余が本日特に茲に勅語捧讀式を擧げたる所以は、明治天皇陛下が百難を排して維新の大業を遂げさせ給ひ、更に國民道德の根本問題たる忠孝の大義を明にしたる御主旨を知らせんとするに外ならず、諸子は毎日學校に昇校してより、教師の命を守り、學科を勉強し、常に小學校兒童の本分を守りて違はざるべきを確信す。是則ち教育勅語の御趣旨を奉戴する所以也。而して余は特に諸子に告げざるべからざる事あり。何ぞや此の教育勅語の御主趣は之を中外に施して悖らずと仰せ玉ひしが如く如何なる國民にありても最も大切なる徳目たるべきを以て、諸子は此の意義を會得して、世界一等國の人民たるに恥ぢざらん事を心掛けざるべからず。日露戰爭に於て我國が大捷を得たる所以の大原因は此の勅語教育の結果による事多しとす。

第十一月

第一回 日誌選奨に關する訓話

本日は諸子が暑中休暇中に於て記載したる日誌の選奨式を舉行すべし。諸子はよく學校の命を守りて暑中休暇中日誌を記載し來れり。而して其の日誌の記載方につき各擔任教師は九月より十月末日まで則六十日間の時日を費して精しく諸子が記載せる日誌の成績を通覽したり。而して其中各學校毎に三人を限りて優等なるものを選び茲に選奨式を舉行するに至りたる也。今年度に於ける日誌記載の成績につきて之を見るに昨年度に比較する時は其冊數は遙かに多數なり之れ一は本校兒童數の増加にも依るべきも一は諸子が

熱心に記載しよく學校の命令を遵奉したる結果によるもの也。而して其提出せざるもの、數も昨年度に比して頗る小數なりとす。而して其不提出冊數のある原因は退學及病氣等に由るものよく怠慢のため提出せざるものは至つて少數なりし也。是亦實に喜ばしき事也。而して其の内容の記載方に就きて之を調査するに或は筆にて記し鉛筆にて記したるあり、筆と鉛筆と混用したるものあり、或は片假名文字を用ひ或は平假名文字を用ひ、或は平假名片假名混用せるものあり、或は句讀點を附せざるものあり、或は漢文字に誤字多きものあり、或は假名遣を誤りたるものありて一般につきて之を評する時は未だ完全なる記載方をなしたりと稱する事を得ざる也。其の他繪畫を用ひざるものあり、寫生的の繪畫あり、臨畫的の繪畫あり、或は色彩を施せるものあり、或は鉛筆のまゝなるものありて、其の記載方は

實に不定にして亂雜を極めたり。特に甚しきは病氣のためか或は怠慢のためか中途にして記載方を中止したるものあり。是等は何れも日誌を調査して初めて發見したるものにして、諸子は未だ十分に其の記載を完結し得ざるもの頗る多きが如し。幸にして學級毎に三四人其他少くとも見るべきもの十冊以上のものありたるは聊心を強ふするに足る也。只今茲に獎選せんとする日誌は何れも一學期中優等の成績を以て選拔せられたるものにして其の記載方は殆んど完全に近い。余は是等の人々に對し日誌記載方の選手として賞讃するのみならず其人の心掛則ち人格の價値を認め得べきを誇とする也。諸子よ日誌の記載を完全にせんには平日より自分の業務を正確にするの習慣なかるべからざる也。而して自己の責任を重んずるの精神なかるべからざる也。

第二回 兒童の忍耐力に關する訓話

諸子忍耐力の必要な事は已に了知せるなるべし。人は何事をなすにも忍耐せざれば決して成就する事能はざるもの也。何事をなすにも障害物なくして成就する事は殆んど之あらざる也。障害物は即ち事業をなす上に於て必ず伴ふて生ずべきものにして、苟も障害物のために挫折し頓挫するが如き事あらんか、其事業は決して完成する事能はざるに至るべし。例へば航海をなすに於ても暴風などありて波浪高く來りて航海に困難を生ずべきは航海するものゝ覺悟する所ならざるべからず。其の他汽車旅行に於ても必ず之等の障害物は伴ひ生じて來るものたる也。余は本日諸子に向つて痛切に此の忍耐力の必要な所以を感じたるにより茲に改めて諸子に訓話せんと

欲する所以也。諸子が毎日毎日學校に昇校するに際し一年三百六十五日春夏秋冬の中には随分困難する事多かるべし。例へば夏季は温度高くして勉強するに困難あるが如く、冬季は又寒氣肌を裂ひて通學に困難する事あるべし。或は雨降る事あり或は風吹く事あり或は雪降る事ありて一年の中には随分諸子の爲めに障害となりて現はれ來るべきものも決して少からざる也。然れども諸子が此一ヶ年中の障害物をして困難に堪ふる時は遂に良き成績を得て名譽ある地位を得るに至るもの也。古語にも困難汝を玉にす、樂は苦の種、苦は樂の種、といへるが如く、諸子今日の苦は他日の樂となり喜となるもの也。是宜く諸子が最も注意を要すべき緊要事たるなり。前回日誌の選奨式を舉行したる時に諸子は選奨せられたる人々の困難と辛苦と忍耐とを知れるか、四十日の休暇決して短しと云ふべからず、然るに

75

彼等は毎日毎日忍耐力を以て事に當り、其日の事は必ず其日に終るべき一個の事業を完成したる也。暑中休暇中は年中最も暖氣甚しき時節なるを以て、或は之等のために其日其日の記載を怠るに至る事あるもの也。然れども選奨せられたる人々はよく困難を忍んで今日の名譽を得たる也。是實に忍耐の賜なりとす。諸子は毎日學校に昇校し教授を受くるに際しても常に此の忍耐力を發揮して常に此の忍耐力を善用して常に教師の教授に注意する所なかるべからざる也。忍耐力なきものは決して最後の勝利を得る事能はざる也。余は諸子に向つて本日更めて忍耐力は萬事を成すの基なる所以を説き以て諸子將來の戒とせんと欲す。諸子は直に此の意を體して事を成すを要す。

第三回 帝國議會に關する訓話

諸子、本日は帝國議會に就いて一言する所あるべし。帝國議會とは即ち全國代議士が一堂に集りて國政を議するものにして衆議院と貴族院との二つに分る衆議院とは即ち我々人民が選舉し推選したる代表者の會合する所にして貴族院とは多額納稅者及び天皇の勅命によりて議員となりたるもの、會合する所なりとす。而して此の貴衆兩院ありて初めて其の偏頗なる決議をなすこと能はざるやうになり茲に其の公平なる決議をなすことを得る事となれり。我國は諸子も知れる如く源賴朝が政權を握りしより徳川氏に至るまで三百餘年の間幕府の下に政治を行ひ來りしも、明治維新の改革と同時に帝國議會を召集し以て萬機公論に決せらるゝに至りたる也。是れ則

ち我國に於ける政事上の一大變革にして、我等が立憲的治下の國民となりたるは則ち此の議會開設後の事なり。議會の開くる前に當りて我國の政治は二三の有力者の爲めに恣にせられ所謂專制的治下に甘したりしも、今日に至りては如何なる人も此の如き壓制の下に生息するを好まず、國民平等の權利を主張する事を得るに至りたる也。故に今日にありては士農工商如何なる階級の人々も同一の權利を主張し信教の自由を有し政治に參與する事を得るに至りたる也。之れ實に明治天皇の御高德の爲す所なり。諸子は將來何れも國民となりて政治に參與せざるべからざるの人々也。而して政治家として最も必要なるは其の道德にあるものにして政治家にして節操なく德行なきものは政治家の資格なきもの也。又將來國民となりても常によく國憲を重んじ國法に遵ふに非ざれ

ば我國の良民と稱する事を得ざる也。國憲を重んぜず國法に適はざるものは立憲治下の國民として價値なきもの也。故に余は諸子が學校内にありても常に學校内に定められたる校則に従ひ常に規律を重んずるの兒童たらん事を望む。小學校は則ち一の小なる國家也。小なる國家に於て定められたる規則を奉ずるの精神なく、校紀を亂るが如きは立憲的國民として立つ事能はざるを證するもの也。余は諸子が學校内にありても常に以上の考を以て自ら自己の權利を尊重し、以て他日有良なる國民とならん事を望まざるを得ざる也。世に政治家と稱して一種の浪人組なるものあり。是等は實に真正の政治家たる資格なきものたる事を知らざるべからず。

第四回 兒童の習慣に関する訓話

本日は習慣に關して一言すべし。古より習慣は第二と天性といつて習慣の如何によりて其人の品性を形成するに至るもの也。而して習慣にも善良なる習慣と善良ならざる習慣とあるもの也。善良なる習慣は實に人の品性をして益々善良ならしむるに至らしむるもの也。余は本日諸子の學校内に於ける各種の習慣につきて聊か注意する所あらんとする也。例へば諸子の服裝につきて之を見るに其の服裝の整はざる兒童は毎日毎日定まりて不潔也。又之に反して服裝の整へる兒童は毎日毎日定まりて清潔也。是則ち一種の習慣となりたるもの也。何となれば服裝の整ひたる兒童は苟も一日にても服裝の整はざるが如き事あられか、其の人の身體及精神上に非常なる不愉快を感ずるに至るを以て也。又其の容儀の如きも言語の如きも亦然り多くは習性となりて、兒童によりて丁寧なる言語を弄し或は野卑なる

言語を弄するに至る也。或は上校及下校の際の混雜の如き是等は一種の惡習慣となりて玄關の口にて草履又は下駄を手にしながら驅け出すが如き是皆習慣の然らしむる所にして習ひ性となりたるもの也。其の他教室内に於ける姿勢、舉動、注意力より日用品の取扱及机内の整頓、整理學用品の準備に至るまで皆多くは其人々の習慣となりて級風を形成するに至るもの也。

凡て習慣は恐るべきものにして一旦習ひ性となる時は容易に之を改むる事難く、又一旦習性となりて良習慣を形成したる時は其の美風は亦長へに其人の品性を高くするのみならず、其の感化は他に及ぼし最も尊敬すべき良風を生ずるに至るもの也。故に諸子は特に小學時代にありて習慣の大切なる所以を悟了し、努めて惡習慣を除け、良習慣を形勢する覺悟なかるべからざる也。良習慣は遂に諸子をし

て將來幸福を得せしむべき者となりて現はるに至る也。又冬期に於ける寒氣に負ける習慣の如き青年時代より手袋、襟卷等のみを用ひ來る時は遂には之を止むる事能はずして、柔弱なる人間とならんのみ、諸子は將來善良なる習慣を得んと欲せば今日より善良なる習慣を必要とせざるべからざる也。

第十二月

第一回 十二月一日に關する訓話

諸子、本日は十二月一日なり、即ち本月は第二學期の最終の月なり、第二學期のはじめ即九月一日諸子に向つて第二學期中の心得につき訓話する所ありたるが、已に三ヶ月を経過し、今や第二學期の最終の

月となるに至れり。第二學期中に於ける諸子の勉強及操行の狀況は一般に優良にしてよく教師の命を奉じ學科を勉強し校規を守り兒童たるの本分を盡したるを信ず。是諸子が平素よく擔任教師の教を守りたるに依るものなり。然れども毎朝の整列の如き或學級は其整列甚しく規律的なれども或る學級は甚しく不規律なるが如き、或は或る學級は其整列速なれども或る學級は其の整列速ならざるが如き、此の如きは畢竟諸子の覺悟決心の如何に依るもの也。

諸子、本月より寒氣一層甚しくなるを以て諸子の通學及勉強の爲には次第に困難なる時節となり來る也。則ち是より寒暖計は益々下降し寒氣は一層嚴しくなりて身體及精神上にも影響を被むるに至るもの也。一年中第二學期は最も勉學の好時節なる事を告げしが之は主として九月十月十一月頃などの秋の時節を云ひたるものにして、

十二月の如き冬の時節には燈火親むべきも、愈々勉強に障害多き時節となる也。雪降り霜白く寒風身を切るが如き時節は即ち本月より侵入し來る也。諸子は此の寒氣に對して萎縮するが如き事なく、反つて寒氣を征服するの覺悟を以て時候と戦ひ以て自己の勉強を繼續せざるべからざる也。寒氣に負ける人は實に意久地なき人也。寒氣に打勝つて初めて頼もしき人と稱する事を得べき也。我國の如きは寒氣甚しけれども未だ寒帶地方に比すれば實に雲泥の相違ありて實に暮しよき時候なるを以て、諸子は是れ位の寒氣に避易する事なく、大に勇氣と元氣とを鼓して以て之と戦ひ奮進して自己の學科を勉強するの覺悟なかるべからざる也。

諸子、本日よりは各教室に暖爐を設くる事となりたるを以て之より寒氣は撃退せられ、室内は春風裏にあるが如き感覺を生ずるに至る

べし。諸子はよく此の暖爐を利用して、自己の精神及身體上の保全を完うし、教室内にありては決して私語し、或は雑談するが如き不注意の行動をなすことなく、専心教師の教授に留意し、以て善良なる成績を得るに努めざるべからざる也。寒氣に負ける人は人間として實に意久地なきものなるを忘るべからざる也。

第二回 冬季中の心得に關する訓話

本日は冬季中の心得に就いて訓話すべし。冬季は夏季と同じく諸子にとりては實に學業をなすに困難なる時節なり。夏季は氣候温暖にして暑氣甚しきが爲に學業に障害あれども、冬は氣候酷寒にして寒氣甚しきが爲に學業に障害を來すもの也。春季と秋季とは時候其中を得るが爲に最も適切なれども、冬季と夏季とは實に其温度の關

係上困難なる事情にある也。此の故に諸子の身體及精神上にも是等の影響を受けて、自然に卑屈に流れ、兒童の本務を怠り、學業を怠慢し、或は學校内の規律を亂るが如き事あるに至るもの也。

諸子が此の冬季中最も心得べき事は寒氣に負けざるにある也。如何なる人も冬季に寒さを感じざるものはなかるべし。然れども此の寒氣に負くるが如きは則ち意久地なきもの也。或は學業を怠り、學校を缺席し、或は遅刻し、或は早引し、或は手袋を用ひ、或は襟巻を用ふるが如きは則ちこれ也。而して此の寒氣に負けたる結果として、自然に姿勢を悪しくして縮み上り、或は行進中手を懷にして、或は步調に元氣なきが如き、或は教室内にありして活氣なく、元氣なきが如き、或は體操の時間に勇氣を缺くが如き、或は甚しきに至りては、便所の水道の水を少量に使用するものあるが如き、是等は實に寒氣に負けたるもの

のよくなす所爲たり。苟も小學兒童にして滔々として此の如き惡風に感染し學業を怠るが如き事あらんか其の結果は實に恐るべきものとなるに至るべし。而して余が特に此寒氣に負けるといふ意は單に身體上則肉體的の關係上より之を注意したる所以にあらず。寧ろ精神上則ち無形的の關係より之を注意したる所以にして其の影響する所は則ち精神の萎縮にありて意氣消沈し元氣の滅亡するに存する也。精神の萎縮は直ちに學科の學習に大影響を及ぼし學力の進歩に大影響を及ぼし學力増進せず、注意力集中せず、元氣全く退縮して何等の成績をも認むる事能はずるに至るなり。故に余は特に諸子に向つて一大警告を促し更に進んで諸子が能く此の寒氣に打勝つて恰も梅花の寒中を忍んで馥郁たる香を放つが如き忍耐力を發揮して學科を勉強し益々好成绩を得るに努めんことを望むもの也。其

の他冬季中は適當に防寒の注意をなして寒氣のために病を起さるやうに努むる事も亦肝要なり。

第三回 冬季休暇中の心得に關する訓話

諸子、來る二十五日より來年正月七日まで二週日の間冬季休暇となるにより本日は其の休暇中の心得に就いて訓話すべし。

諸子も知れる如く夏季休暇をなす所以は、夏は時候暖くて勉強に困難するのみならず、諸子の身體及精神の攝養上必要あるによるものにして、冬季休暇も亦之と同じく冬季は寒氣甚しき爲め諸子の身體及精神上の攝養上より之を施行する所以也。然れども冬季休暇には此理由の外他に一二の理由存す。則ち冬季休暇は恰も年末及年始にあたり、學校に於ても諸子が新年を迎へるために之を課す事ともな

り居る也。而して歳末には又諸子の家庭に於ても亦夫れ相應に多忙を極め家事の手傳を要する事多しとす。故に諸子は冬季休暇なるの故を以て寒氣に負けて毎日火鉢にのみよりて、元氣を缺くが如きは、大なる誤なりとす。諸子は此休暇中にありても家庭の許す限りは毎日少しつゝ復習をなし又家事多忙なる時は必ずお手傳をなし或は御使をなす等諸子の身分相應なる作業をなす事肝要也。又場合によりては店の番をなし或は家事の掃除をなす等諸子の爲すべき事頗る多しとなす也。特に正月は新年のために何處の家にも其祝福を祈るを以て諸子は相當の禮儀を盡して新年の廻禮をなす事も必要也。或は遠方にありて之を成すこと能はざる恩人等に對しては端書又は手紙を以て之を祝する事も必要也。或は來客ありたる時は決して無作法の行爲をなさず、よく之を禮遇して優待する所無かるべからざる也。

らざる也。

余は特に諸子に一大注意をなすべきことあり、諸子は此休暇中に於て紙鳶揚の遊をなすはよけれども、人車の往來繁き處又は交通機關のある處等にありては之をなさざるをよしとす。電車電信線に紙鳶のかゝり居るを見るは毎年の事也。其他戶外の遊戯の如き市中の往來繁しき處に於て之を成すは注意を要する事也。女子の羽子つきの如き是也。其の他勝負事の遊戯、危険なる遊戯、及正月の松飾に惡戯をなすが如き事は必ず之を注意するを要す。諸子は如何なる場合にありても必ず小學兒童たる本分を守り以て自己の行爲を慎みて常に公衆のために計る所なかるべからざる也。

第四回 第二學期終業式に関する訓話

諸子、本日は第二學期の終業式なり。諸子が第二學期の九月一日より本日まで約四ヶ月の間即百二十餘日の間諸子はよく余の訓話を服膺して實行し來りたり。諸子、光陰は矢の如く去り再び來らず本年もあます所數日を出でず。諸子はよく此の長日月の間日々學校に昇校してよく勉強したり。勿論多數ある兒童の内には或は怠慢のために學校を缺席したるものあるべし。或は病氣のために學校を缺席したるものあるべし。或は事故のために學校を缺席したるものあるべし。其他種々の事情によりて或は遅刻し或は早引したるものあるべし。と雖全體の上より之を見る時は頗るよき成績を示せり。諸子は此第二學期に於て勉強せしが如く第三學期に於ても更に勉強せざるべからざる也。第二學期中は時候中和を得諸子の勉強に好適たりしなるべし。之が爲に諸子の勉強のために如何程の便利ありしかを知

るに足る也。諸子、好機逸すべからず。諸子の勉強の時は實に此の秋の時節にあるもの也。諸子がよく余の訓話を服膺して勉強したるは余の喜ぶ所也。之が爲に諸子の學業成績品展覽會に於ても何れも相當の成績を得て第一學期に比して非常に進歩を見たるは實に喜ばしき事也。諸子は此良結果をして更に第三學期に於ても益々其の結果を充實して善良なる結果を得るに努めざるべからざる也。

尙諸子に向つて特に一言すべき事あり。則ち此第二學期の休暇は時恰も十二月と一月とに際し、世間は師走と正月との時節なるを以て諸子は十二月に於ても、正月に於ても其の心得を忘るゝ事なく以て相當の作業をなし相當の補助をなし相當の手扶をなすを要す。十二月中は何處の家も多忙を極め要務多かるべきにより、諸子は父又は母より何か家事の手傳を命せられたる時は喜んで之に應じ以て十

分に之が補助をなさざるべからざる也。如何に學校より毎日の復習又は宿題を命ぜられたる事あるも、家事の忙はしき時は之を助け其の餘暇に於て自分の復習等をなさざるべからざる也。又正月にありて最も必要なるは新年の心得にして、新年は何れの家庭にありても來客多かるべきにより、諸子は之等の來客に對しては相當の作法禮儀を盡し以て世間の禮儀を尊重せざるべからざる也。例へば客ありたる時は丁寧な挨拶をなし之を迎へ、言語動作等決して無禮の舉動あるべからざる也。其の他松飾等丁寧に之を取扱ひ決して惡戯等をなすべからざる也。又正月中に於ける遊戯も勝負事又はかけ事等賭博に類するもの及公益を害するが如き事は斷じて之をなさざるをよしとす。

第三學期

第一月

第一回 一月の始業式に關する訓話

諸子本日は新年の始業式なり。諸子は何れもめでたく新年を迎へ何れも喜ばしき顔を以て此處に整列せるは余の實に愉快とする處也。諸子のみにあらず諸子の家族の人々も諸子と一緒に新年を迎へ實に喜ばしき事也。其他一般國民も同様に新年を迎へて此の太平の御世に棲息する事を得たるは實に吾等臣民の慶賀に堪えざる所也。諸子、諸子及諸子の家族の人々が新年を迎へたるが如く本校も亦同様に新年を迎へたる也。諸子が年齢を加へたる如く此學校も亦年齢

を加へたる也。諸子等がめでたきが如く此の學校も亦めでたき譯也。諸子は新年を迎へて只うれしい喜ばしいといつて無意義に之を迎ふるが如き事あるべからざる也。新年を迎ふると共に年齢を一つ加ふるを以て茲にはじめて其の責任を生ずるもの也。一休和尚の歌には「正月は迷土の途の一里塚めでたくもありめでたくもなし」と云へる如く、年少の兒童にありては正月が來れば羽子をつき紙鳶をあげて遊び或は加留多、獨樂遊等をして實にめでたきものなれども、年長者の老年者にありては愈々死に近くものなるを以て却つて悲しみを感ずるもの也。年少者にありては益々前途有望の光を認むる事を得れども、年長者にありては愈々絶望の光を認むるのみにして何等の樂なきに至るべし。故に此正月は人々により又其の人の考へやうによつては如何様にも之を了解し又解決する事をも得べき也。然れ

ど一般に之を考るゝ時は誰一人としてめでたく感せざるものはなかるべき也。何となれば正月は則ち其の年の始にして十二月は其年の終なれば也。即ち正月は其年の第一歩にして十二月は其年の最終の日なれば也。古語にも一年の計は元日にあり、又古きを捨てて新を迎ふとか或は又既往を咎めずとか、種々の格言ありて兎に角新年は實に是等の格言につき無量の意義を有する事を知るべき也。故に諸子はよく此格言の意義を悟了して則ち正月一日より此の考を以て一年の計を定め以て事業及學業に向つて勉勵せざるべからざる也。又前年の事は一切打捨て、新に本年度の計劃に向つて猛進せざるべからざる也。又昨年は失策ありても凡て之を念頭に措かず新年に向つて勇進すべき也。余は正月の始業式に臨み特に諸子に此の意義を訓話し以て聊か諸子の學習に資せんとする也。諸子はよく常に教

師の命を守り學校の規則を遵奉し以て善良なる日本人たらん事を期せざるべからず。特に本學期は證書授與式の學期なるを以て一層諸子の勉勵努力を希望する所以なり。

第二回 雪の通學に關する訓話

諸子近頃寒氣次第に厳しくなりて昨日の如き大雪降り來るが如き諸子の通學に困難の事情之あるべし。然れども之は諸子のみ困難を感ずる所以にあらずして世間の人々は誰にても同様に交通の不便を感じ居る也。然れども之は時候の關係上冬日は雪降る季節なるを以て一般の人民にありても同様に困難を感ずるもの也。故に諸子は是等の困難に對して決して元氣を挫くが如き事なく、大に勇氣を鼓して寒氣と戦ひ以て大に勉勵する所なかるべからざる也。諸子我國

の如き温帶地方にある國にありては決して雪の日と雖も甚しく寒氣なきものにして寒帶地方の如き國にありては實に其寒氣は言語に絶するに至る也。白瀬中尉の南極探検隊の如き其極地の寒氣は實に意想の外にありといふ。諸子は昨日の大雪を以て本年稀なる寒氣なりと思惟するものあらんも此の如き寒帶地方又は南極或は北極に比する時は其の温度の差違は實に雲泥の相違あるを發見するに至るべし。諸子は雪中行軍を知れるか。軍隊にありては軍人の精神元氣の訓練として雪の日を擇んで行軍をなすことあり。之れ等は其の行爲野蠻的なるが如きも其の効果は實に顯著なり。又諸子は小川泰山先生の逸話を知れるなるべし。小川泰山先生は雪中も決して一日も休む事なく毎日毎日勉強して遂には大人物となりたる也。又昔し車胤といふ人は雪を集めて雪の光にて讀書をなせしといふ。其の他

乃木大將の如き幼少の時嚴父より雪中に押倒されて冷水を頭より浴せられて、決して泣かざりしといふが如き、昔も今も將來大人物になるべき人は皆是等の困難を忍びて雪と戦ひたる也。諸子よ諸子は直に是等の聖賢の人と同じく同様の行爲をなせよとは言はざるべきも諸子は常に是等の人の行爲を自己の手本とし又模範として常に勇氣と元氣とを鼓して如何なる寒中積雪の時と雖も決して意氣鎖沈するが如き事なく大に各自の決心を堅くし以て學校に昇校し毎日自己の學修すべき教授に就いて大に熱心し以て優良なる成績を得、將來の大人物たらん事を心掛けざるべからざる也。是實に諸子の努むべき道たる也。諸子よ本月は正月なれば是より二月三月迄は時々雪降る事もあるべし、寒風吹きすさむ時もあるべし。諸子は決して是等の障害物に避易する事なく、忍耐と勇氣とを鼓して第二學期

以上の良き成績を收むるに努めざるべからざる也。雪の景色も又諸子を慰むるものなくんばあらず。

第三回 約束事項に関する訓話

約束を守るは人間道德の最も大切なるものにして、一國の國法の如きも又約束事項に外ならざる也。古より今日に至るまで人は約束によりて初めて圓滿に無事に世を送る事を得るものにして、苟も人にして約束を守らざるが如きあらんか社會は忽ちにして不安の念を以て滿さるゝに至るべし。されば人は如何なる人にも如何なる世にありても約束を守るは人道として缺ぐべからざるものにして、一日も之を忽に附すが如き事はあるべからざるもの也。

諸子の學校生活に於ても亦此の約束事項を以て成立するものにし

て、學校の諸般の規則の如き亦一種の約束事項に外ならざる也。上校及下校の心得の如き、運動場に於ける心得の如き、始業前の心得の如き、廊下に於ける心得の如き、敬禮及整列行進の規律の如き悉く之れ學校内に於ける約束事項たる也。其の他諸子の訓練上に關する諸般の心得の如き、清潔、規律、禮儀、作法に關する事項の如き是皆學校内に於ける約束事項たるなり。其の他教室内に於ける諸般の心得の如き亦同じく一種の約束事項たる也。諸子は今小學校兒童となりて小學校に通學し學校生活を試みつゝある人たるにより決して是等の約束事項を遵守せざるが如き行爲あるべからざる也。小學兒童にして是等の約束事項を遵奉する事能はざるが如きは兒童として其の本分を失したるのみならず、將來國民となりて世に立ち社會生活をなす上に於ても決して善良なる國民として生存する事能はざる也。諸

子の學校生活は即ち社會生活の初歩たるべきを以て學校生活を完全に履行する習慣を養成する事最肝要なりとす。是實に諸子に取りて忘るべからざる一大事たる也。其の他個人間の約束事項の遵守の如き人間道德の根本義なるを以て、何事にも一旦約束した事は必ず之を履行するの覺悟なかるべからざる也。人と約束したる事項を實行する事能はざる人は遂に人の信を受くる事能はざるに至るべし。約束の勵行は實に其の人の價值を定むる事を得べきもの也。然るに世には公會又は私人の宴會其の他の集會に於て、亂りに時間を守らざるが如き惡風あるは實に痛歎すべき次第といふべし。諸子は常に教師に對して約束する事なかるべし。例へば算術の宿題の如き、或は休暇中の日誌の如き其の他學校より命せられたる事にしてなすべき事頗る多しとなす。此の如き場合にありては決して約束に違反

するが如き事なく必ず之を實行するを要す。

第四回 兒童の自習に關する訓話

本日は自習に關する心得に就いて一言すべし。自習とは即ち自ら學習する謂にして他人の指示教授によらず自ら勉強する事也。凡そ諸子に取りて最も必要にして且大切なるものは學習是也。學習は實に諸子畢生の一大事業にして諸子の將來は小學時代に於ける學習の如何によりて決定せらるゝものなり而して之と同時に必要なるは自習にして學習と同時に自習をなして初めて諸子の學力及操行を正しくする事を得べき也。學習は即ち學校に於て受くる學術の修養にして自習は即ち學習せる教科目を更に練習する事也。故に諸子は小學校に於て學び得たる事項は必ず家庭に歸りて再び自習する事

を要す。自習は實に諸子の學力を増進し智識の修練をなすに缺ぐべからざるもの也。家庭にありて自習を怠る如きは實に頼みなき兒童にして遂には一旦學習せる學科も記憶を遠ざかるに至るべし。余は茲に自習の心得として第一に其日其日の自習主義を勧めんと欲す。即ち毎日毎日學校にて學習したる事項は家庭に歸りたる後は更に再び之を自習し復習するを必要とする也。自習して初めて其の記憶を確實にする事を得べき也。故に讀方科にありても算術科にありても其の他の學科等にありても家庭に歸りたる後は學校にて學習したる處を更に復習し自習し練習するを要す。余は更に自習主義によりて教師の教授を受くる前必ず自ら教科書の自習をなして、其の要點及必要なる下調をなして教師の教授を待たずして自ら學習するの大切なる事を告げんとする也。諸子よ諸子は餘りに教師の教

授教師の指導のみに依頼して、自ら進んで勉強し質問し自習せんとするの觀念に乏しきが如し、是れ實に喜ぶべき現象にあらざる也。明治の小學教育は開發主義の極遂に一も開發二も開發と稱して遂には兒童の智識を修練する方法を閑却したる也。是等は却つて諸子の爲めに惡結果を來すものにして、害多くして益少なし。明治の教育を受けたる兒童が應用の力に乏しく學力不足せるは多くは是等の原因による事多しとす。諸子は今大正の時代に在りて大正の教育を受けつゝある也。宜しく氣宇を豁大にして、自動的に活動し自動的に學習する氣慨なかるべからざる也。余の諸子に望む所は即ち此の自習主義の實行にある也。

第二月

第一回 二月一日に關する訓話

諸子、本日は二月一日なり。諸子が新年を迎へてより已に一ヶ月を経過したり。一月の始業式に於て諸子に本學期中の心得及本年中の心得に就て訓話する所ありたるが、諸子はよく余の訓話の意を了解し之を實行したるを信ず。而して二月も又一月と同しく時候未だ寒氣甚しく諸子の學修に困難を感ずる事多かるべし。然れども此の二月は最も大切なる月にして即ち三月になる前月にあたるを以て此の二月中に於て諸子の學業成績の如何は之を定むる事を得べき也。何となれば三月は諸子に取りては最も大切なる證書授與を舉行すべき月なれども二月中に於ては略諸子の學力を認定し得べきものなるを以て諸子は二月中に於て諸子の運命を定めらるゝものとい

ふべし故に諸子は二月に於ては他の月よりも一層勉強する事肝要也。之を運動會等に於ける競争遊戯に比せんに諸子は四月より三月まで或る出發點より一直線に他の兒童と競争遊戯をなしつゝあるものと少しも異なる所なき也。即ち諸子は一學級六十餘人が一團體となりて今競争遊戯中の中途にある也。或は又一學年の全兒童と共に其の競戯中の中途にある也。否な各教科目の成績の競争に於て其の優劣を争はんとしつゝある也。此の競争に於て敗北したるものは即ち不名譽の甚しきものにして、此の競争に於て勝を得たるものは非常なる名譽也。此の競争に於て敗北したるものは即ち落第生となりて元級に止め置かれ、此の競争に於て勝を得たるものは優等生として褒狀を授與せらるゝ也。諸子は今此の競争に於て、殆んど其の決勝點に近きつゝある也。此の決勝點の近距離は即ち決勝に一大關係

を有するものたるにより、非常なる努力と勇氣と勉強とを以て之を成すにあらざれば月桂冠を得る事難事たるべし。余は此の二月にあたり特に一層此の感を深くしたり。諸子はよく余の訓話の意を諒とし、猛進して成績を擧ぐるに努められん事を望む。然れども諸子、困難は汝を玉にすといふ格言あるを以て諸子は常に此の困難に打勝つゝの勇氣を鼓舞する事を忘るべからざるなり。

第二回 日露海戦に関する訓話

諸子、本日は日露開戦公布の日也。諸子も已に聞きたるが如く、我日本と露國とは明治三十七八年に於て大戦争を開始し露國は遂に大敗して我帝國は名譽ある大捷を得たる也。初め露國は明治二十七八年日清戦役に於て我國が大捷を得て支那より旅順を得たる時、三國同

盟して東洋の平和に害ありとして我國に向つて還附すべきを勸告し來りたるを以て、我國は之を容れて清國に還附したりしが、露國は遂に旅順を以て清國より借り受け、茲に軍港を設けて、盛に軍艦を集申し以て、大に東洋に覇を振はんとせり。加之露國は浦鹽港にも軍港を設け、海軍の根據地を設け、進んで、西比利亞鐵道を布設して、滿洲より更に朝鮮に向つて手を伸さんせり、而して端なくも我日本との交渉事件を生じたりしが、露國は遂に一步も讓歩せず、頑として聞入れざりしを以て、我帝國は自衛の必要上、遂に露國と干戈を交ふるに至りたる也。是實に明治三十七年の二月十日にして、則ち本月本日也。諸子、我國は當時政財十分ならず、軍艦完備せず、糧食十分ならずしも、遂に國民一致して、臥薪嘗膽、以て露國と戦ひたる也。此の時に當り、國民の心配は如何なりしぞや。當時露國は世界の強國として、雄を振

ひつゝある時なりしを以て、我國民が之を心配したるも、決して無理ならざる也。是を以て、世界各国は皆日露開戦に就て、非常に心配し、特に英國及米國の如き、我日本國に向つて、大に同情を表し、遂に日英同盟の結果、軍資を出し、米國の如き、又多大の同情を以て、我日本國に對して資金を投じたる也。諸子、何事をなすにも、兵を動かすは、則ち金力なれば、此時に當り、最も必要なるは、軍資金にある也。幸にして我國は、英米兩國の援助を得て、大に心を強ふする事を得たる也。然れども、當時軍備不十分なる海軍及陸軍の戦鬪力に就て、大に心配したりしが、忠勇なる東郷大將及乃木大將等の司令に基づき、大に露國と戦ひ、旅順を陥れ、遂に日本海、の海戦に於て、悉く露國の艦隊を全滅したり。而して陸軍も、又奉天、遼陽の大戦に於て、大に露國を敗り、茲に日露の決戦は定まりたる也。諸子よ、我日本帝國が今日、世界の一等國に列し、世

界の強國として列國と肩を並ぶるに至りたるは則ち此の戦勝の結果に依る也。

第三回 紀元節に關する訓話

諸子、本日は紀元節なり。紀元節とは我國第一代神武天皇の御即位遊ばされたるめでたき日にして我國に於ける三大祝日の一なり。神武天皇ははじめ日向の高千穂の宮に居ませしが其の後中國より畿内地方に至りて賊を征伐し、遂に大和の橿原の宮に即位式を行はせられたる也。此の日を紀元節と稱し、我日本帝國の創業せられたるめでたき日也。今年は恰も二千五百七十三年目にあたれるなり。天長節とは即今上天皇の御誕生日にして、紀元節は日本帝國の誕生日也。人として自分の誕生日を祝せざるものはなかるべし。況んや日

本帝國の誕生日なるに於てをや。而して我國は神武天皇の御即位以來今上天皇陛下に至るまで百二十餘代皇統連綿として歴代の天皇皆臣民を愛撫し給ひ、又一端外國と戦を開きて未だ嘗つて一回も敗北したる事あらざる也。神功皇后の三韓征伐より元冠の亂、朝鮮征伐其の他日清戦争、日露戦争に至るまで未だ嘗て外國と戦ひて敗北したる事はあらざる也。

日露戦争後我國は世界の一等國となり、我國の國威は益々世界に輝き、今日に於ては世界到る處として日本國民を知らざるものなきに至れり。而して今や世界の人々は皆我國民を敬慕するに至れり。諸子は今此の如き幸福ある國民と生れ來る豈に諸子の幸運に非ずや。而して本日は宮中に於ては尊嚴なる御儀式を舉行せられ、天皇陛下御自身に御祭典を行はせ給ふなり。我等はよく我國體の成立、建國の

等に就き、深く之を腦裏に銘して決して之を忘るゝが如き事あるべからざる也。而して此の責任を完ふせんには諸子は平日よりよく學科を勉強しよく師の命を守り、善良なる小學兒童となる事肝要なり。善良なる小學兒童は即ち他日國民となりて善き國民たる事を得べければ也。余は特に紀元節の祝日に際し特に諸子の決心と覺醒とを希望したる所以也。諸子はよく建國の要素を發揮して元氣を養成し以て世界的國民たるに恥じざらん事を努むべし。

第四回 梅花の教訓に關する訓話

諸子は梅花を見たるなるべし。近頃の寒氣にも拘はらず處々に梅花綻び始めたるなり。諸子は此梅花を見て如何なる感を起したるか。梅花が開きて只美しいといふばかりに感じたるか。或は又梅花が開き

て香ひよしとのみ感じたるか。或は又梅花に鶯が鳴くのを見て實によき心地のみしたるか。要するに梅花を見て其人々の心に任せて如何様に見るもそれは其人の勝手たるべし。然れども余は茲に梅花につきて之を諸子の日常の手本として之を見たる也。何ぞや。梅は實に寒中を凌ぎて花の先驅をなして綻びはじめたるなり。梅は實に紅梅、白梅と其の美觀は兎に角實に匂よき香を放ちて開きたる也。余は此の意義に於て非常なる教訓的の意義を以て見たる也。彼の梅が寒中雪の爲めに非常なる困難辛苦を経たる事は諸子も知れるなるべし。かくて梅は此の困難辛苦に打ち勝つて遂に茲に此の如き美しき花を咲きはじめたる也。梅はかくて又此の如き匂よき花を開きて花の先驅をなしたる也。是實に梅花として價值あるもの也。

諸子の小學校に於ける學業の成績に於ても亦然りとなす也。彼の寒

氣を恐れて或は缺席し或は遅刻し或は早引するが如き人は決して優等の成績を得る能はざるが如く、或は彼の寒氣を恐れずして常に出席し決して遅刻又は早引等をなしたる事なき人は常に優等の成績を得るが如く其の結果は恰も梅が寒中を凌いで馥郁たる香を放つと少しも異なる事なき也。而して特に梅花が花の先驅をなすが如き萬事機先を制するの教訓は實に諸子の最も服膺せざるべからざる處也。

彼の菅公はよく此の梅を愛したる人也。是れ彼は彼の梅の木がよく寒中を凌いで困難に堪え花の先驅をなして香を放つを以て也。諸子は彼の梅の花に鶯のとまりて嬌音を弄するを聞きたる事あるべし、春を告ぐる鶯は第一に此の梅の木に來りて春の音づれを報ずる也。是豈に梅の花の名譽にあらずや。諸子はよく是等の花をよく意義あ

らしめ常に自分の教訓として學を修め行を改むる處なかるべからざる也。草木にして此の如し況んや人に於てをや、余は特に忍耐力の必要を説きたる所以也。

第三月

第一回 三月一日に關する訓話

諸子、本日は三月一日にして則ち第三學期の最終の月にして又一學年の最終の月なり。諸子が昨年四月のはじめより本月に至るまでの間に於て勉強せし結果及成績は此三月二十五日の授與式に於て之を發表せらるに至る也。則ち此の三月廿五日は所謂諸子の一學年中に於ける成績の發表日にして又其の成績の決定せらるゝの日也。而

して此の成績の發表日に於て優等證を得るものは則ち成績の優等なる事を證明せられたる也。又其の發表日に於て精勤證を得るものは即ち其の毎日の勉強の精勤なる事を證明せられたる也。而して又卒業又は修業證は何れも其の教科目を卒業又は修業せる事を證明せられたるもの也。然れども不幸にして一學校内には約一割則百人位は何時も落第生を出して此の名譽の式に列せしむる事能はざる事情あり。是實に學校としては甚だ好まじからざる事にして、兒童自身に取りても兒童保護者に取りても實に不幸にして又氣の毒なる次第也。然れども此の結果は何れも致方なきものにして決して無理なる又偏頗なる不公平なる處置の結果に非ずして、自ら招きたる結果なるを以て、諸子は決して人を怨み又天をも怨むが如き事あるべからざる也。古より天は自ら扶くるものを扶くとか或は自ら成せる

禍は己に歸るとか云ふ如く、其の結果は凡て自分が之を成したるものなる事を忘るべからざる也。余は本日特に諸子に注意を促して以て一大反省を求めんと欲する也。則ち此の三月の月は一學年中の總勘定日なるを以て三月に於ける成績の通計は諸子成績の計算の結果なるを以て決して教師を怨み又は學校を怨みるが如き事なきを望む。之に反して優良の成績を得又精勤證書を得んと欲するものは此一ヶ月即三十日間は勇往邁進し又以て一年中の自らなせる努力の結果を貫徹せしむに努めざるべからざる也。若し此三月になりて或は怠慢し又は遅刻し早引し教授に不注意あるが如き事あらんか。千日の功は一日にし亡びるに至るべし。之則ち百日温めて一日冷せば其の效を失ふと同しかるべし。諸子は一層身體を健康にし以て各自の學科を勉強し優良の成績を得ん事を要す。

第二回 學藝會に關する訓話

諸子、三月中に於て學藝會を舉行する筈に就き、本日は學藝會に關する事項に就き訓話すべし。

學藝會とは、則ち諸子の學藝に關する一種の展覽會にして、諸子平日の學藝の如何は此の學藝會によりて判定し、批評し、斷定する事を得べきなり。展覽會とは、則ち成績品の展覽會にして、主として、技能科に屬する、圖畫、書方、手工、裁縫等に屬するもの、其の多數を占め、之によりて諸子の成績の如何を比較、想定する事を得べき也。又體操大會或は運動會の如きは體操及運動遊戲に關する一種の展覽會にして、之によりて以て其の成績の如何を窺知する事を得べきなり。學藝會も亦之と同じく、全く諸子の學藝の成績に關する一種の展覽會たるに、よ

り之によりて諸子平生の學力、其の他を推定する事を得べきなり。故に今回施行すべき學藝會にありては、諸子は十分に全力を以て之を練習し、其の學級又は學年に於て最も優良なる兒童に限りて之を出演する方針をとるをよしとする也。則ち其の學級又は學年の成績は、出演兒童之が代表者たる事を知るべきなり。此の故に、苟も出演兒童として選出せられたるものは、其の責任の重大なる事を思ひ、學藝會に出演するに當つては、其の覺悟決心を以て十分に練習し、十分に鍛練し、十分に修練し、以て自己の責任を盡し、併せて學級及學年の名譽を擧ぐるに努めざるべからざる也。是則ち自己の名譽たるのみならず、學級學年の名譽たり。唯に學級學年の名譽たるのみならず、則ち本校の名譽たる也。故に余は特に本日學藝會當日に於ける諸子の重要なる注意事項につきて一言せんとする也。

第一は出演兒童の態度是也。出演兒童が會場にありて其の精神の修養不足する時は忽ち態度の缺陷を生じ實に見苦しき状態となる也。是實に注意すべき一要件也。

第二は出演兒童の言語是也。出演すべき兒童は言語を正當に發表し、音聲明瞭にして抑揚あり、高低あり、以て會場内に徹底するを要す。

第三は出演兒童の舉止是也。舉止は實に其の出演者の價值を判定する有力なる材料たるべきを以て努めて此の舉止に注意し、靜肅の裏に機敏を失はざるを要す。其の他注意すべき事多く要は十分の練習をなすにあり。

第三回 陸軍紀念日に關する訓話

諸子、本日は陸軍紀念日也。則ち明治三十七八年戰役に於て我軍が露

軍を遼陽の戰に於て大に塵滅せしめたる紀念日也。諸子も知れる如く、我日本帝國と露國との戰役は實に近世に於ける未曾有の大戦にして、此戰爭は一方が世界に雄を振ひつゝありたる一大強國即ち露國なりしたため、大に世界の注視を惹起したる也。唯に世界の注意を惹起したるのみならず、非常の興味と恐怖とを以て之を見たる也。何となれば日本國は未だ此の大國と戦ふ丈の實力と軍備とを有せざりしを以て也。然るに一たび開戦の公布せられてより我海軍は連戦連勝の勢を以て露國の艦隊を撃沈し、遂に旅順艦隊を塵滅せしめ、繼いて日本海の大海戰に於て露國の全艦を撃滅してより、日本海軍の雷名は世界を轟かすに至りたる也。是實に我海軍の名譽なりしなり。然るに陸軍に於ては一方に於て旅順の包圍軍ありて容易に之を陥落せしむる事を得ざるのみならず、世界の各國は海軍に於ては日本

軍の大捷を得たるも陸軍に於ては或は勝算なかるべしと豫期したり。而して其の決勝の如何は未知數に屬したりしなり。而のみならず、若し日本軍にして一たび陸戰に於て大敗せんか、海軍の大捷は直に其效を失し、露國は再び非常なる勢を以て回復する事を得、日露兩國の戰爭は其の終結を見るの日知るべからざるに至らんとするなり。是れ世界の列國が非常なる興味と恐怖とを以て之を見たる所以也。果然奉天の戰に於いて大捷を得たる我軍は進んで遼陽の戰に於て、露國を包圍し、戰線十數里に至り兵を動かしたる事數十萬途によく露軍を破りて大に大捷を得る事を得たりし也。是實に三月十日にして即ち本月本日也。是實に記憶すべき一大紀念日たり。若し此の陸戰にして不幸にして大敗せんか我日本帝國の地位は一變して露國壓制の下に終結を完ふしたるや計るべからざる也。果して然りとせば

我日本海大戰の名譽と結果とは水泡に歸するに至るべし。幸にして我軍は遼陽の戰に於て大捷を得、茲に我國の名譽は一躍して世界一等國に列し世界の強國として文明國と共に肩を並ぶるに至りたり。諸子は小學兒童として將來兵役の義務あるにより常に義勇奉公の精神を忘るべからざるなり。

第四回 證書授與式に關する訓話

諸子、本日は諸子の最も喜ばしき又最も目出度き又最名譽ある日也。諸子は何れも學年相當に修業證書を得て茲に一年間の勉強の結果を證明せらるゝ事を得たるは余の愉快とする所なり。又諸子は一學年間一回も缺席せざる兒童は精勤證を授與せられ、又成績優等なる兒童は茲に褒狀を授與せられたり。是等は何れも特に一層の名譽な

りといはざるべからざる也。特に本日は來賓父兄多數臨席の光榮を有し此席に於いて此の如き名譽ある式に列し證書を授與せらるゝ事を得たるは諸子此上もなき名譽といはざるを得ざる也。

願みれば諸子は四月一日より本月二十五日迄則ち一年十二ヶ月三百六十五日の間は或は雨に或は風に或は暑く或は寒く其の間諸子の通學に困難なる事情も多々ありしと信ず。而して其の學習する學科も數科目ありて何れも學年に相當して次第に困難六ヶしくなり居るを以て諸子は學科を勉強するに當りても非常の苦痛を感じたる事あるべし。又一ヶ年の教授時間中に於ては教師の教授に對しても種々なる事情と困苦とを感じたる事あるべし。然れども諸子は今日何れも是等の困難を忍び是等の困苦と戦ひて遂に今日の如き名譽ある月桂冠を得たるは實に諸子の名譽たるのみならず父兄諸子

の悦は如何なりしかを推知するを得べし。

諸子は今何れも相當の學級學年にありて相當の學科を勉強しつつあり。諸子は今日此の證書を受くると同時に又一階の學科を修めざるべからざる也。一年は二年に、二年は三年に、三年は四年に、五年は六年に何れも上級に進むべきにより諸子は一層奮勵して、本年に劣らざる決心と覺悟と忍耐と勉強とを以て來學年も亦今日と同様の名譽を得るに努めざるべからざる也。特に卒業生諸氏は今日以後卒業生となりて社會生活に入り或は中學校其の他實業學校又は専門學校女學校等に入學すべきを以て卒業の後には常に小學校に於て受けたる學力を應用し常に教育勸語の精神を服膺し學を修め業を習ひ以て智能を啓發し徳器を成就し進んで公益を廣め世務を開き常に國憲を重んじ國法に遵ひ一旦緩急あれば義勇公に奉じ以て天壤無

窮の皇運を扶翼する覺悟なかるべからざる也。

講話資料 月曜訓話資料の實際

第一回 兒童の出席獎勵に関する訓話

生徒諸子、余は四月一日始業式の日にて、本學年度に於ける諸子の心得を訓話したるを以て、諸子は十分に其の心得を了解せるを信す。本日は更に諸子が學校兒童として最肝要なる一事につきて訓話せんと欲す。肝要なる一事とは何ぞや、則ち諸子が學校兒童として學業を勉勵し善良なる兒童となるべきは勿論の事なるが之よりも先決なる問題あり、則ち諸子が毎日學校に出席すると云ふ事はなり。諸子は學校の兒童となりて何より大切なるは學校に出席すること。是なり。諸子ももし學校に出席する事なき時は教師の教訓を受くる事能

はざるに至るべし。故に諸子の最肝要なる一事は學校に出席するといふ事なり。次は遅刻せぬことなり。次は早引せざる事也。

此統計表(出席歩合統計表)は本校創立以來の兒童出席の歩合を統計し黒線を以て之を比較したるなり。第一の線は本校創立當年の出席の歩合にして、第二の線は昨年度出席の歩合を示せるものなり。第一は短く第二は長し、即ち短い線と長い線とは何れが善きかと云へば、長い線の方を善しとするなり。則ち第二線の兒童出席の歩合は之を百分比にする時は九三・五となり、則ち百人の兒童中毎日九十三人半の出席者ありて残りの六人半は缺席者となる也。然れども之を前年度又は前々年度に比較する時は最高の成績を示せり。之實に悦ばしき事也。

現今東京市の小學校の數は約百六十七ありて、他の小學校に於て出

席歩合の最も優良なるものは、本校の成績以上にして九八にも達し居る也。故に諸子は、本學年度に於ては、尙一層の心掛を以て勉勵し以て成績を擧ぐるに努めざるべからざる也。諸子之を諒せよ。

第二回 兒童の意地に關する訓話

生徒諸子、前日は諸子が學校兒童として最必要なる事件に就きて訓話せしが、本日は身を立て名を成すに最大切なる心得につきて訓話すべし。

諸子も知れる如く世に意地と云ふ事あり、而して其の意地には良き意地と惡るき意地とあり、例へば食意地と云ふが如きは惡しき意地にして、勉強し又は身體の健康を計らんと欲するが如きは良き意地なり。余は諸子が兒童として常に如何なる意地を最必要とするかに

つきて一言すべし。

諸子が學校兒童として必要な意地は則ち「人に負けぬ」と云ふ意地是也。而して其の第一歩は同學級に於ける同一の机に並べる人に負けぬと云ふ事也。次は同學級の優等者に負けぬと云ふことなり。凡て意地といふ事は人間が世に處し事を爲すに最必要なものにして、大にしては日本帝國が二十七八年及三十七八年の日清戰役及日露戰役に於て、大捷を得たるが如きものにして、是則ち國民意地の發揚による也。故に諸子は常に此の良き意地の修養を怠る事なきを望む。終に臨みて一言すべきは、近頃朝の第一時前に於て運動場にありて遊戯をなし繩飛等をなすものあり、是等は諸子の學修上甚だ障害多きを以て、諸子はよく學校の規則を守り決して校規を破るが如き事あるべからざる也。其他教場より頭を出し又廊下の窓より窓外を窺

ふが如きは深く注意せざるべからざる也。

第三回 櫻花の教訓に關する訓話

本日の學校新聞には櫻の記事に就き記載しあるを以て諸子は已に朗讀せるなるべし。而して其の内容につきては余は茲に談話せざるを以て諸子は學校新聞の記事を朗讀するを要す。

櫻の花は昔より「花は櫻木人は武士」と稱し花中の王と稱せり。余は諸子が櫻の花を見る時は單に花の美をのみ見ずして花の心を見んことを希望するなり。本日の學校新聞に記載せる歌は何れも櫻の花の心を咏みたるもの也。諸子は花を見るに當りては常に花の心を見るを要す。

第四回 兒童の姿勢其の他に關する訓話

生徒諸子、余は本學年になりて數回諸子の教室に臨み或は又運動場等に於ける状態を見、更に擔任教師よりの報道に接し左の各項につきて訓話すべし、

一、姿勢を正しくすべき事、

姿勢は體育上及精神修養上最重大なる關係を有するものにして、學校の教育は學科を學修する他體育は實に重要な一大事なり。然るに諸子の教室にあり或は又行進等を成す場合に於て姿勢の正しからざるもの多し。勿論讀方等の場合にありては稍々其の姿勢を保つものあれども、書寫の場合例へば書方、綴方、算術等の場合に姿勢の正しからざるもの頗る多し。余は本學年になりて諸子の

成績が前學年より上進を期したりしに反つて其の不成績なるに一驚したり、併し或一二學級は特に姿勢の良好なるものあれども一般に姿勢正しからざる傾向あり、余は先日身體検査の當日精細に其の缺陷を知るを得たり、特に五年二年の女兒に多く脊柱の彎曲せるものを見たり。

二、鉛筆を甜めざる事

鉛筆には色鉛筆等ありて有毒のものあり、其の他普通の鉛筆も之を甜める時は有害なるのみならず甚だ宜敷からざるにより、爾今鉛筆を甜めざるやうに注意するを要す、特に教授の場合に是等の兒童甚だ多し。

三、眞面目なるべき事、

諸子が教室にありて教授を受くる有様を見るに頗る眞面目の風

を缺くは實に遺憾なり、例へば讀方の時間において教師の教授に注意せずして讀本の挿繪などを見るものあり、又書方の時間に手本の文字を見ずして無意義に文字を書くものあり、又體操の時間に其の級の優等と目せらるゝ兒童にして力の入れ方足らざるものあり。

諸子は以上の各項につきて爾後十分に注意して之を矯正するに努めざるべからず。

第五回 一學年兒童の規律に關する訓話

生徒諸子、諸子が知れる如く、一學年兒童は入學の當時は何の作法規律をも辨へざりしが、一ヶ月末の今日にありては、諸子が見る如く作法及規律を辨するに至れり。

今日諸子に注意すべきは、一學年兒童の運動場及其の場合に於ける關係是也。一學年兒童は來る五月一日より諸子と同様に運動場に整列せしめ、遊歩時間に於ても諸子と同様に取扱ふ筈也。是につきて諸子に注意すべきは一學年兒童の模範となりて、兒童の面倒を見る事是也。一學年兒童は是れまで多く教室にありて先生の訓陶を受け、運動場には自由に開放せざりしが、今回五月より教室より出さしめ、諸子と自由に遊歩せしむる筈也。此の場合に於て一學年兒童の模範となりて面倒を見ることは實に諸子の責任たり。一學年兒童の善良なる兒童となるも不良なる兒童となるも亦諸子の責任如何にあるなり。諸子は運動場に於て善良なる模範を示すのみならず、便所通其の他の場合に於ても、常に一學年兒童に譲り以て之が面倒を見るの心得なかるべからざる也。

次に諸子に注意すべきは、一學年兒童の作法及規律の進歩是也。諸子も知れる如く入學の當時は、何の作法をも知らざりしが今日にありては諸子が實見する如く作法及規律の進歩を見たり。諸子の學校に於ける成績も亦之と同じ。諸子は教室にありて學修する時に於て常に教師の教授に注意し、能く師の命を守らざるべからざる也。

第六回 兒童の出席勉強に關する訓話

生徒諸子、本日は五月一日にして本學年の授業を開始してより已に一ヶ月を経過したり。本日は四月中に訓話せし重要なる事項につきて更に訓話せんと欲す。

第一、兒童の出席歩合也。

四月の始に於て諸子に出席の大切なること、出席の小學兒童とし

て最肝要なる事を訓話せしが、爾來一ヶ月間に於ける諸子の出席歩合を見るに本日までは未だ全部の報告を得ざるを以て確實に之を談話することを得ざれども、四月の出席歩合の成績は三月の出席歩合に比較して不成績の結果を示せり、勿論本月は退校轉學等種々の事情あるものも多きを以て、之を整理する時は其の成績をよくすべきも、大體に於て四月の出席歩合は頗る不成績なり、爾後十分に注意するを要す。

第二、兒童の勉強是也。

諸子も知れる如く學校に出席するは決して無意義に出席するものに非ずして大なる目的を有するにより、諸子は學校に出席したる上は大に勉強する所なかるべからざる也。

第三、兒童の姿勢是也。

姿勢は近頃其の成績良好なるも、未だ以て十分なりと稱するを得ず。諸子は三ヶ月又は六ヶ月一ヶ年間、長日月の間に於て完全なる姿勢を得るに努めざるべからず。

次に四月中に於ける諸子の學業及操行の成績につきて一言すべし。四月中は兒童の入學及身體検査、教室變更、學科の困難、擔任教師の變更等ありたるを以て、四月始に於て諸子に其の注意を促せしが爾來一ヶ月間に於ける諸子の成績を見るに、概して不良なりといふに非ず。然れども未だ良好なりと稱するを得ざる也。例へば學校内に於ける規律に就きて之を見るに、本校の或る時代には羽月に倚るもの一人もなき時代もありき、號令臺に倚るもの一人もなき時代もありき、煉瓦の上に横臥するもの一人もなき時代もありき、無斷にて器械體操場に入るもの一人

もなき時代もありき、運動場にありて本を讀むが如きもの一人もなき時代もありき。勿論本學年は兒童數も千八百人以上の多きに上り兒童の數に於ても頗る多數となるに至りたるが故ならんも、諸子は一層規律を遵守するに努めざるべからざる也。

次に遺憾とする所は諸子の自奮自疆の精神なきこと是也。余は學校内各教室に於ける諸子の勉學の有様を見るに一般に、教授に注意するもの多きは余の悦ぶ所なり。然れども諸子は本年度に於て一層奮發勉強せざるべからずといふが如き自奮自疆の精神なきは一大缺點なり。爾今諸子は十分に此の心得を以て學科を勉強する所なかるべからざる也。

最後に一言すべきは諸子の校外に於ける行動是也。學校教育は諸子の學校外に於ける行爲を優良にするにあるを以て、諸子は校外にあ

りても、常に自己の行動に注意せざるべからざる也。本日は擔任訓導より校外に於ける諸子の注意すべき事項を印刷せるものを配布すべきにより、諸子は十分に校外兒童心得を遵奉せざるべからざる也。

第七回 校外教授の結果に關する訓話

本日は校外教授につきて一言すべし。諸子前日何れも各方面に校外教授をなせしにより、其の利益する所大なりしを信ず。特に第六學年兒童は麻布第三聯隊の兵營則ち兵隊屋敷を參觀して親しく將校の談話及軍隊の規律、教練及其の生活の状態を實見したり、其の利益する所多大なるべきを確信す。從來本校の校外教授は何れも山野の自然物を觀察する方にのみ之を施行せしが、今回第六學年生は軍隊屋敷の參觀をなせり、是實に本校創立以來初めての事也。諸子は此の參

觀によりて第六學年生は第五學年生に第五學年生は第四學年生に結局本校兒童全部の兒童に、軍隊の生活及規律等を知らしむる事を得べき也。

余は本日諸子の實見を補ふため、日本軍人に關する重要なる事項の一二を談話すべし。日本軍隊が他國と戰つて常に勝利を得るは其の原因種々あるべしと雖も、日露戰役に參加して實地に軍人の生活を試みたる某氏の談話を聞くに日本軍人の優強なるは全く左の原因に基くものなりといふ。

一、上官の命に服従する事是也。

日露戰爭の時我軍と露國と戰ふ場合に於て、露國軍隊は先づ戰ふ前には必ず先づ智識に訴へて其の勝利の相違なきや否やを考量し、敵を破るには、幾萬の兵と幾月とを要するかを考量し、もし勝算

なき場合には直に退却する也。日本軍隊は然らず勝つと負るとは一切之を念頭にせず、上官の命に服従して進軍する也。上官の命は即ち大元帥陛下の命令となる也。是則ち日本軍の勝つ所以也。

二、辛抱強き事是也。

旅順の戦に於て難攻不落の二〇三高地を攻撃するにあたり我軍は上官の命に従ひ、倒れては進み倒れては進み辛抱強くして遂に二〇三高地を占領したりといふ、是實に日本軍の勝つ所以也。

尙校外教授の始末につきては諸子は各々日記帳を整理して其の始末を付くること肝要也、而して更に其の效力を大にすること肝要也。第四學年の如きは泉岳寺義士の墓に詣でたるにより十分に其の結果につきて考ふる所あるを要す。其の他の學年に於てもそれ／＼利益する所あるべきにより、本日は之より教室に於て更に擔任訓導の

談話あるべきにより諸子は一層注意する所あるを要す。

第八回 運動會の心得に關する訓話

余は本日運動會を舉行するにつき最も必要なる三大事項に就きて訓話せんと欲す。

第一、協同一致是也。

運動會も校外教授と同じく學校の課業を校外に於て舉行するものにして則ち上野公園竹の臺に於て全兒童の運動を舉行するものなるにより、決して物見遊山等の心得を有すべからざる也。諸子現在本校の兒童數は約千七百名あるにより、諸子が各自に自由行動をなす時は、支離滅裂の状態となるべきにより、諸子は常に協同一致の精神を以て千八百人の兒童は恰も一人の兒童が活動する

が如き行動なかるべからざる也。

第二、運動規律是也。

規律の必要なる事は、常に訓話する所なるが、運動會の日に於ても常に此の規律の嚴守に留意せざるべからざる也。運動競技の場合に於ても體操をなす時に於ても、觀覽席にありても、凡て規律を守らざるべからざる也。

第三、公明正大是也。

公明正大に行動する事は、運動競技に於て特に必要なりとす。勝ても負けても必ず公明ならざるべからざる也。楠正成の湊川の戦死は敵に負けたるもの也。然れども正成は力の限りを盡して公明正大に戦死せしを以て其の名は後世に輝ける也。楠正行の四條畷の戦死も亦然りとす。諸子よ負けても公明正大なる時は其の行動

は實に歎賞するに足る也。諸子は運動競争の場合に於て決して卑劣なる行爲をなして勝利を得るが如き行動をなすべからざる也。尙運動會の心得につきては已に擔任訓導より訓話ありたる學級もあるべく、精細なる注意は、受持訓導より訓話あるべきにより、諸子は十分に之を實行して善美なる運動會の成績を收むるに努めざるべからざる也。

第九回 トラホーム治療に関する訓話

生徒諸子、諸子は本日上校の際、玄關及昇降口にて赤旗を置けるを見たるならん。此赤旗はトラホーム治療の日なることを知らしむるためにして、毎週火金の二日に限りて校醫出張の上學校に於て之が治療をなすなり。勿論今日までも此の兩日に限りて之を成し來りしも

間にはトラホーム兒童にして治療を怠るものあり。故に本日より更に其の實施の日を確實に通知する所以也。

而して本校に於けるトラホーム兒童の數は昨年四月の調査によれば百五十人もありしが、今日にては其の半數となるに至れり。之れ諸子が全く治療を受けたる結果にして、學校又は其の他の眼科専門醫等につきて治療をなせし結果による。而して本年の調査によれば初年級即ち新入學の兒童に最も多く二年三年等上級に至るに従ひ、次第に其の數を減せるよりして之を見る時は、此の成績は全く諸子が學校に於て治療をなしたる結果による也。

本日より毎週火金の兩日正午晝の休憩時間に於て學校の衛生室に於て之を治療すべきにより、午前の授業を終りたるものは控所に行きて、靜肅に之を待たざるべからざる也。物置場の一部には腰掛を出

し置くべきにより、トラホーム兒童は運動場に出づる事なく、此の控所に待たざるべからざる也。又二部の學級にありては午前のものは一旦家に歸りて再び學校に出で、後部のものは昇校直に此の控所に待たざるべからざる也。

第十回 運動會の成績批評訓話

運動會の成績につきては其の當日其の美點につきて其の一二を談話し置きたるを以て本日は其の反面の缺點につきて其の重なる一二を談話すべし。

第一、運動規律是也。

今回の運動會に於ては、前回若くは前々回に比して運動の規律概してよろしからず、運動の開始、終始等其の規律頗る見苦しかりき。

例へば競技の場合に於て第一列が競争を開始する場合は、第二列第三列も亦規律を正しくする筈なるに其の他の列も後方に至るに従ひ頗る不規律なりしなり。競技をなすべき兒童は、競争を開始せざるも、其の規律を正しくすべきは運動の本則たり。然るに多くは不規律なるものありき。其の他競技の場合に亂りに矯態を演じて談話をなせるが如きは實に不規律の極也。

第二運動の成績是也。

今回運動會の成績は決して悪し、といふに非ず、然れど上出来なりといふを得ず、先づ相等なる成績ある運動會なりき。余は先日最終の運動會を見たりしに其の成績は頗る良好なりき。則ち兒童の運動に元氣ありし事是也。精神が統一せられたる事是也。之に由りて之を見る時は本校の如き正に六ヶ年を経過したる學校にあり

ては優に其の成績を良好にする事を得べき筈也。然るに今回の如き不成績を得たる所以は一朝一夕の故に非ずして、諸子平日の成績による也。

之を要するに運動會は其の價值少くして、却つて諸子の平日は價值多きを知らざるべからず。故に余は今回の成績は諸子平日の結果なりと斷言せざるを得ざる也。諸子は爾今體操をなす場合に於ては精神的に活動して四肢を運動する事に留意する事肝要也。精神活動し統一し始めて身體の運動を見る事を得べき也。

第十一回 海軍記念日に關する訓話

海軍記念日は國民的の記念日なるを以て諸子は此の日にあたりて將來永久に其印象を深くせざるべからざる也。三月十日の陸軍記念

日と五月二十七日の海軍記念日とは兩つ併せて決して忘るべからざる也。余は聞く露國にありては、近時少年團を設けて兵式的の訓練的遊戯等をなさしめ將來の覺悟をなせりと、かくて露國皇帝陛下に於ては、自ら少年團の檢閲をもなし玉ふと承はる也。我國の海軍記念日は我國にありては、最も目出度日なるに拘はらず、露國にありては最も嫌むべき日なりとす。而して此の日は恰も露國皇帝陛下の御誕生の佳日にあたり、然るに我國にありては其の翌日は皇太后陛下の御誕生の日也。豈に感慨なからんや。昔より勝つて兜の緒をしめよと云ふ事あり、諸子は一日も油斷をなすことなく、常に忠君愛國の精神を涵養することを忘るべからざる也。

第十二回 公德養成に關する訓話

我國民と外國人との比較をなす時は日本人は、決して外國人に劣ることあらず、又外國人は何時も日本人より優れりといふ事を得ず。然れども公德の一事に就きて之を比較する時は、外國人は日本人に優れる處ある也。

公德とは例へば公園に紙屑などを散らさず、樹木を折らず、草花を取らざるが如き善徳をいふものにして、試に淺草公園につきて之を見るに、亂りに柵の中に入るものあり、紙屑を散らすものあり。又日比谷公園内の草花を手折るものあるが如し。是れ日本人に公德の缺乏せる所以也。然れども之を外國につきて見るに此の如く公德なきものは恰んど稀にして、例へば西洋の或國に於ては電車に電車賃を入れるべき箱を置きて乗客は、各自に賃錢を投入して少しの相違あることなしといふ。又郵便局にありては一々之を配達せずして、其の局に於

て番地を區別して置くのみなるに、受取人は少しも相違を來すことなしといふ。之を日本人に就きて見るに、電車の乗客例へば百人あるとせよ、決して百人の賃錢と相違する所なきが如きは疑はしき事也。郵便物に於ても然りとす。余は日本人に特に此の必要を感ずるもの也。

諸子の學校内に於ける公德につきて之を見るに、運動場に紙屑を散らすものあり、便所を汚すものあり、廊下の左側を通行せざるものあり、教室にありて亂りに言語を發するものあり、其の他舉げ來る時は公德を破るの例頗る多し。爾今諸子は一層此の公德に就きて注意せざるべからざる也。尙道路通行の事につきては先日既に訓話し置きたるが如く、諸子は必ず此の左側通行の規則を遵奉せざるべからざる也。

第十三回 蟻の善徳に關する訓話

人間と動物と何れがゑらきかを問はば、諸子は必ず人間を以て動物よりゑらしとせざるものはあらざるべし。然れども此の如くゑらき人間にして動物に劣る事あり、又ゑらからざる動物にして人間に優ることある也。

本日の學校新聞には蟻の事につきて掲載しあるを以て、諸子は已に之を讀みたるなるべし。蟻は諸子の知れる如く至つて小なる動物にして人間より劣ること數等なるを知らず。然るに蟻には驚くべき智力と善徳とを有せり。余は本日最肝要なる三項につきて更に諸子に訓話すべし。

第一、友達に親切なる事は也。

蟻は友愛の情に富み、仲間に対して親切なり。諸子は此の心を以て蟻を観察する時は、幾多の事實を發見するを見るべし。然るに諸子の學校内に於ける行動を見るに、教室内にありて人と争ふものあり、運動場にありて惡戯をなすものあり。諸子は人間として特に今日教育を受けつゝあるに拘らず、其の行爲の動物にも及ばざるは實に恥づべきことに非ずや。

第二、共同一致の精神是也。

蟻は實に共同一致の精神に富み、其の列を組み行進するを見るに、其の間隔等整然として、其の長は幾間の長きに達するも決して自由の行動を取ることなし。是實に共同一致の精神あるによる也。學校内に於ける諸子の行動も亦此の共同一致の精神を必要とする也。

第三、忍耐力是也。

蟻は實に忍耐力に富む。忍耐力は事業成功の基也。彼の白瀬中尉の南極探檢の如き全く忍耐力の結果による也。諸子の勉學も亦然りとす也。

第十四回 國民の不道德に關する訓話

諸子も知れる如く前東京市の市長は尾崎行雄と申し前文部大臣たる人にして十年の長日月東京市の爲に盡瘁せられたるが、在職中は常に市民教育につきて注意せられたる事多く、主として公德に關し公會の席上又は新聞雜誌に於て發表せられたる也。本日は其の主なる二三項につきて諸子に訓話する所あるべし。

第一、不正直なる事是也。

日本國民は一般に公德に缺乏せるが特に東京市民は不正直なるもの多し。即ち虚言を以て恥づる所なきが如し。例へば小學校に於ける兒童は教師に對して往々知らざる風を成し、或は又虚言をなして憚らざるが如き教室内に於ける紙屑の散れる場合又は、缺席兒童の理由申立の如き、不正直にして教師を欺きて憚らざるものあるが如し。

第二公德心是也。

即ち物品に對する公德の如き、他人の物品は我物の如く考へて、無答に之を使用するが如き他人あらざる時は無斷に之を使用して憚らざるが如き、是往々實見する所たり。例へば教室内に於ける他人の墨及筆を無斷にて使用し、或は雨天の日に於て、他人の傘を無斷にて使用するが如き、公園の草花を無斷にて手折るが如き是也。

第三、惡戯是也。

即ち故意に其の人に恨を以て之を成さゆるも戯れに他人に惡戯をなし、道路の通行等の場合に随分惡戯をなすもの多し、或は突然暗處より突貫して他人を驚かす等の如き往々見る所也。

以上は其の主なる事項にして、東京市民は日本國民の代表者たるに拘らず、此の如き缺點と惡徳とを有せり。日本國民にも亦其の長所は多々あるべきも、此の如きは實に國民の一大缺點たり。諸子は常に是等の公德につきて注意する所なかるべき也。

又本日は授業日數も残る所僅三週日に過ぎざるを以て、諸子は十分に辛抱して勉強する所なかるべからざる也。時下炎暑次第に加はり教室内に於ける姿勢、注意等情容を來して精神上にも持續忍耐等の善徳を破壊され易きにより諸子は十分に注意する所なかるべから

ざる也。

第十五回 展覧會の成績批評訓話

本日は成績品展覧會の成績につきて一言すべし。本學期の成績品の展覧は本日より諸子に縦覽を許すことゝなりたるが之を前回の成績品展覧會に比較するに一般にサツパリとして其の成績物も前回より幾段の進歩を認むべく前回に比して劣る所はあらざる也。而して今回の展覧會に於て前回と異なる點一つあり、即ち他校の成績物をも陳列したる事是也。此の成績物は唱歌教室の中央に陳列しあるが諸子の知れる市内小學校の優等成績物を陳列し置けり、余は之を觀覽したるが、其の書方、圖書等に於て遙かに本校の成績物以上にし、て、本校兒童の企て及ぶ所に非ざるを知りたり、勿論此の成績物は市

内小學校兒童の優等なる成績物なるにより、之を本校兒童の優等成績物と比較するに、彼の成績物は恰も階級の最上にありて、我の成績物は其の中央にあるの感ありて、其の差は甚し、諸子はよく之を觀覽して自ら猛省する所なかるべからざる也。

第十六回 國民の惡風に關する訓話

生徒諸子、諸子の中には此度の暑中休暇中、余に宛て、葉書又は手紙を以て御見舞を辱ふし、余の深く感謝する所也。余は一々返信を發せざりしにより、本日更めて茲に謝意を表する所以也。

生徒諸子、世の中には随分心得違ひの人あり、他人の成功を羨み、或は又他人の善事を妨ぐるものあり、又人は誰にても自己に關係ある人が成功し、或は善事をなしたる場合は、恰も自己が成功し、或は自己が

善事をなしたるが如き感あるものなり。然るに世には随分自己主義の人ありて、自分さへ幸福を得れば他人の利害は一切相關せざるが如き考を有するものあり。是實に考違ひの甚しきもの也。然り而して特に我日本國民には是等の惡風ありて、往々他人の成功を害し或は他人の善事を妨ぐるもの多く、其人の面前にては表面上之を褒むれども、蔭にては之を誹謗して至らざるなきが如きものあり。是實に惡むべきの甚しきもの也。此の如くなる時は我國道德の進歩は得て望むべからざるのみならず、我國の隆盛は決して得べからざる也。

余は此暑中休暇中或る地方に旅行し、特に此の感を深くしたり、其の地方に於ては高山多きにより山林の業盛にして目下殖林の計劃をなしつゝある也。然るに聞く處によれば其地方の山林にありては或所有者の山林が十分に發達して頗る有望なるに至れば、其他の人々

は大に之を妬みて山林發達に害をなすもの多く、或は又種々の流言をなして之を妨ぐるもの多しといふ。是實に慨歎すべきこと也。是に於てか近年此地方の小學校に於ては、是等の惡弊を除かんとして將來の農民たる小學兒童の精神を涵養し、此の如き惡風を排除するに努め、大に小學教育に於て之が道德教育に力を注ぎつゝありといふ。是實に喜ばしき事也。

余は其の地方に至りて此の談話を聞き、本校兒童の状態につきて考ふるに恰んど同一の感を抱くもの也。毎日本校に於て教育を受けつつある生徒諸子は恰も此の地方の山林業に類し、本校兒童中優等のもの又は善行をなすものあれば、表面にては之を褒めて裏面には之を排除するものあるを聞く、同じく本校兒童にしてみても、善良なる兒童ある時は、自分が恰も善良なる兒童となりたるが如く之を喜ばざ

るべからざる筈なるに、却つて之を妨ぐるが如きは思はざるの甚しきもの也。余は日常生徒諸子が學校内に於ける行爲につきて之を見るに此の如き惡風をなすもの頗る多きを目撃せり。生徒諸子日本國民にして一人たりとも此の如き惡風を有するものある時は、日本國民の繁榮は得て望むべからざる也。本校にして一人たりとも此の如き惡風を有する兒童ある時は、本校の隆盛は得て望むべからざる也。生徒諸子は十分に是等の惡風に感染することなく、善良なる兒童となり、本校の隆盛をはかり、日本帝國の繁榮を企圖せざるべからず諸子之を諒せよ。

第十七回 我國の勳章に關する訓話

生徒諸子、諸子は已に本日の學校新聞を見て我國の勳章につきて知

了したるなるべし。我國の勳章は大別して五種とす。而して勳章は天皇陛下より勳功ある人々に下し賜はるものにして、吾人は國家に勳功を立て又は自己の職務を忠實に働く時は必ず勳章を拜受する事を得べき也。

第一は大勳位菊花大綬章なり。此の勳章は我國にて最も勳功ある人に下し賜はるべきものにして、故伊藤公、山縣元帥、大山元帥、桂公東郷大將、徳大寺公井上侯、松方侯等は之等の勳章を拜受せられたり。第二は旭日章にして勳八等白色桐葉章より勳一等旭日大綬章まで八等あり。

第三は瑞寶章にして勳八等より勳一等まで也。

第四は金鷄勳章にして戦時に勳功ありたる人に賜はるものなり。例へば日清戦争又は日露戦争の時に於て砲臺を占領したる場合等

には此勳章をたまはるものなり。而して此勳章にも階級あり、功一級金鷄勳章を頂きたる人は山縣、大山、伊藤、東郷、山本、上村、片岡の海軍大將など也。

第五は寶冠章にして、此の勳章は女子にして勳功ある場合に下し賜はるものにして、勳八等より勳一等まであり。

以上は何れも我國に於ける勳章の種類なるを以て、諸子は十分に此の勳章の種類を記憶し、是等の勳章を得るの心掛なかるべからず。勳章は此の如く國家に勳功ある場合に之を拜受すべきものなるも、世には無形の勳章ありて、目に見えざる一種の勳章といふものあり。此の無形の勳章は何人もこれを得る事を得るものにして、誰にても各自己の本務を全する時は茲に無形の勳章を得べき也。

諸子は本校にありて目下小學兒童たるにより、國家に勳功を盡して、

是等の勳章を得ることは出來ざるも、余の見所によれば諸子千六百人中二三の人は優に勳章を有し又確に勳章を拜受し得る人あるを信する也。余は即ち本校兒童或二三の兒童は確實に無形の勳章を胸にするを見る也。此の無形の勳章は目には見えざれども實に奥床しく感ずるもの也。故に諸子は小學時代にありても直に此の無形の勳章を得ることを得べき也。然れども余は生徒諸子が現在に於て無形の勳章を得るに努むるのみならず、更に進んで將來國家の干城となり有形の勳章を得るに努めんことを望む。

要するに諸子は我國の勳章の種類を記憶するに止まらず、勳章の精神につき一日も忘却せざるやう努めざるべからず。

第十八回 兒童の學術操行に關する訓話

本日は生徒諸子の學術及操行につきて一言すべし、生徒諸子、諸子も知れる如く東京市には市視學なるものありて東京市内の學校を參觀して諸子の學術及操行等を視らるゝことゝなり、毎年一回又は數回本校を參觀せらるゝ也、過日も亦例によりて東京市視學來校ありて本校を參觀し生徒諸子の學術及操行につきて有益なる批評ありたり、其の内最も重要な事項につきて生徒諸子に一言すべし。市視學の評によれば生徒諸子の教室にありて授業を受けつゝある有様を見るに少しも自ら進んで勉強し自ら進んで教授を受けんとするの精神に乏しきが如し、是實に注意を要すべき事也。云々此の一言は最も味ふべき言にして、生徒諸子が教授を受くる有様は之を一年前に比すれば年々頗る進歩せるも、視學の批評は大に注意を要すべき事也。生徒諸子は教室にありて少しも活動なく眠れる有

様をなし、少しも教師の教授を聞き、又教師の教授を自ら進んで記憶し、自ら智識を得んとするの念に乏しきが如し、是實に一大恨事なり。尋常の一年生の兒童にありては、教師の注意又は助力によつて教授を受くるは亦已を得ざるべきも、尋常四年以上五年二年の兒童にありては教師の注意又は助力を待たずして、自動的に教授を受くる覺悟と精神となかるべからず、生徒諸子が教師の補助によりて教授を受くるは實に殘念の次第也。生徒諸子も知れる如く兒童の學力増進は教師と兒童と一致したる場合に始めて之を得るものなれば、生徒諸子は常に教師の教授に注意すると同時に自ら進んで勉學する覺悟なかるべからず。

生徒諸子は彼の雲に聳ゆる淺草の十二階、五重塔又は藏前の煙突を見たることあるべし、彼の十二階五重塔の雲をついて高く毅然とし

て他の悪風に感染せず、自ら高くするの風あるは豈に欽慕すべき事ならずや。諸子は又淺草公園に行きて店頭飾れる廣告板を見たるなるべし。彼の看板は一見之を見れば實に美を極め衆人の注意を惹くが如きも、其の裏面より之を見る時に實に見るに堪へざる有様をなし、後押によりて店頭飾られたるに驚くなるべし。生徒諸子諸子は此の二個の建物により諸子平日の訓話の材料たるを得ん。諸子は決して店頭の看板の如くならずして、十二階又は煙突五重塔の如く獨立して自ら進んで勉學し悪風に感染せざるやうに努めざるべからず。

第十九回 兒童の姿勢、服装、規律に関する訓話

本日は第二學期の始め九月の最初に於て訓話せし條項につき、生徒

諸子が未だ十分に實行せざる事項につきて訓話すべし。

第一は姿勢をよくすること也。九月の始め訓話せし當時は姿勢も相當によりしが、日を経るに従ひ次第に悪くなりて、運動場の整列教室に於ける讀方、話方等の姿勢は未だ十分に實行せられざる也。姿勢は則ち其人の精神の發現なるを以て諸子は十分に、常に姿勢を正しくするに努めざるべからず。

第二は服装を正しくする事也。服装も姿勢と同じく訓話の當時は稍注意したるものありたれども、近頃は頗る注意を怠るものあるに至れり。例へば女子にありて髪の亂れたるものあるが如き、男子にありては帽子の戴き方のよろしからざるが如き、是等は一見して頗る生意氣に見ゆるにより十分に正しく戴かざるべからざる也。又其の帽子被の如きも常に洗濯に注意せざるべからず。又帶

は正しく結び後方に結ぶを要す、又女子の帯は稍々上方になり過ぎるを以て少しく注意して下にするの心地なかるべからず、又手拭の汚れたるもの、手足の汚れたるもの等ありて、衛生上甚だ不都合也。

尙、近頃は時間の變更により辨當を要するに至りたるが、晝食のために歸宅する場合又は晝食より學校に入り來る場合に不作法の行爲あるを見る。諸子は十分に規律を守り、亂暴なる舉動をなすべからず、又二部の生徒は往々早くより門前に蝟集して、通行人の妨害をなすべきものあるにより、時間の如きはよく注意してアマリ早く集らざるやうに注意すべき也。其他器械體操場の如きも、亂りに砂を散らして、惡戯をなすものあるが如き、或は又當番のものにして器械體操をなすものあり、當番は其任務他兒童を監督し他兒童の面倒を見るた

めのものなれば自今當番兒童のものは、自ら器械を使用する事を止むべし、通用口の如きも本校の如き多數の兒童ある學校にありては頗る混雜する憂あるにより、廊下其他通用口に集り或は佇立せざるやうに注意するを要す。

要するに本日訓話せし事項は常に平日訓話しつゝある事項なるにより諸子は十分に其の意を諒すべし。

第二十回 修徳の工天に關する訓話

本日は九月中に於て訓話せし最重要なる事項につき更に一言し尙本月中に於ける心得につきて訓話すべし。

九月中に於て訓話せし重要なる事項は第一公德心につきての訓話第二勳章につきての訓話、第三、視學の批評に關する訓話にして第一

に日本人には公德心の少き事。尙本校の兒童も公德心の缺乏せる事を訓話し、某地方の山林事業につきて談話したり、第二は學校新聞に掲げたる勳章の事にして、生徒諸子は無形の勳章を胸にするの覺悟なかるべからざるを訓話し、第三、何事も自ら進んで成すべき事を訓話したり、諸子は常に是等の事項につきて自ら實踐せざるべからず。又九月の始に於て約束せし事、第一服装を正しくすること、第二姿勢を正しくすること、第三元氣よくする事、是等は諸子が常に注意を怠るべからざることにして、本年は秋季に於ける運動會もなく、諸子は十分に學問を勉強して、常に是等の成績を良くするに努めざるべからず。而して人は日一日年一年に進歩發達するものにして、彼の十二階に上るに一階は一階より、十二階に上るに至り初めて十分なる觀望を得るが如く、諸子の修徳も亦宜しく斯の如くならざるべからず。而

して諸子が修徳上最必要なるは他人の注意にして、諸子は常に是等の刺激によりて自己の操行を正しくせざるべからず、則ち學校にありては校長及職員の注意、家庭にありて父母兄弟の注意、社會にありては志ある人の注意により、常に自己の行爲を反省し徳を研かざるべからず。故に諸子は常に他人の注意を喜んで納るゝの襟度なかるべからざる也。而して諸子等は常に自動的に自ら自己の徳を修むる覺悟と精神となかべからざる也。彼の淺草公園に於ける五重塔を見よ、常に巍然として高く聳へ風雨の害を受けざるものは、其の建築に於て一塔より五重まで一貫したる大柱之を支ふれば也。諸子も亦此の五重塔の如く常に自己の精神と身體とに於て、正しく一貫せる主義と覺悟を有する時は、心ず自己の立脚を堅くする事を得べき也。諸子は常に學校にありて訓話を聞けども之を實行するの勇氣なき

は常に之を念頭より忘るゝを以て也。故に諸子は常に之を忘れざらん事に注意し更に進んで一旦人と約束したる事は必ず之を實行するの覺悟なかるべからず。例へば本校第二學年生の學級訓練事項は公德心の養成、第五年は勤勉規律、第四學年は清潔準備、鄭重にして是等は各學年毎に教師と約束したる徳目なるを以て、此の徳の養成を忘却するが如きことあるべからず。其の學年毎に此の徳の特徴を發揮し以て約束を實行せざるべからず。約束を反古にするは人生の恥辱たる也。諸子は常に是等の訓話を服膺して有爲の人とならざるべからざる也。是實に余が生徒諸子に望む所也。

第二十一回 遠足運動會に關する訓話

本日は校外教授及遠足運動會につきて一言すべし。校外教授は校外

に遊びに行くものに非ず、教授に出かけるもの也。遠足運動會も亦之と同様なる目的を有するもの也。

生徒諸子、諸子等は毎日學校にありては必ず整列し、行進し、然る後教室に入りて教授を受くるなるべし。校外教授も亦之と同じく此の三項を十分に心得て正しくなす事が最肝要也。故に余は本月行ふべき校外教授及遠足運動につきて生徒諸子が常に此の三項を正しく實行せん事を望むもの也。

第一は則ち集ることにして、學校にありて整列すると同じく、校外にありても、教師の命令によりて集るべき場合には正しく集まらざるべからず。集れの號令ありても、其處彼處に遊び戯れて速に正しく集まらざるが如きは實によろしからざること也。學校にありても毎日整列の正しき時は教室に入りて教授を受くる場合も十分

に注意するが如く、校外にありても集ることの正しく速なる時は、教授も亦十分に達せらるゝ事を得べき也。

第二は行進することにして、校外教授又は遠足の場合に行進拙劣にして人と人との間隔正しからず組と組との間隔正しからず、或は後れ或は走り實に見苦しき行進をなすを見ることあり。是恰も支那兵、露西亞兵の敗北せる時と同じく實に不規律なるものなるを以て、諸子は常に途中の行進に注意せざるべからざる也。

第三は教授を受くることにして、校外にて教授を受くる場合も、教室にある時と同じく能く教師の教授に注意し以て其の教授の目的を達せざるべからざる也。

又毎回校外教授又は遠足の時に、出發の際の整列は平日の如く正しからざるにより、今回は十分に是等の點に注意するを要す。余は本日

以上の三點につき生徒諸子に注意し、其の成績の善良ならん事を望むもの也。

第二十二回 學校内雨天の日に於ける心得訓話

此頃は雨降の日多きにより、本日は雨天の日に於ける兒童の心得につきて訓話すべし。

生徒諸子、往來を通行する場合は、左側を通行すべきは雨天の日に限らず如何なる日も此の心得なかるべからざるが、此頃の如き雨降の日に於ては特に左側を通行する心得なかるべからざる也。何となれば雨天の日には誰にても傘を用ふるにより、若し何人にも此規則を守らず亂りに右側を通行するが如きことありては實に不都合なることにして、通行人の迷惑は此上もなき事也。然れども常に規則を

守りて左側を通行する時は別に差したる不都合を見ざるべき也。其の他學校の登校の時、門前に集り或は校門に入る時、或は又學校より歸る時の如き、諸子はよく規則を守り混雜を來すが如き所爲あるべからざる也。

學校内にありては特に廊下の通行の如き、必ず左側を通行し亂りに右側を通行するが如きことあるべからざる也。特に本校の第六年生の如きは第二學期中に於ける訓練要目は此の左側を通行するといふことにあるを以て本校の上級生たる以上一人たりとも此の規律を亂すが如きことあるべからざるのみならず、常に下級生の模範となるの覺悟なかるべからざる也。

又雨天の日に於ける屋内體操場の如き、僅かに百二十坪なるを以て千人以上の兒童を收容する時は頗る混雜を生ずべきにより、生徒諸

子は常に此の狭き場所を廣く使用するの心得を以て、遊戯其他の舉動に注意せざるべからず、然る時は狭き屋内體操場も廣く之を使用する事を得べき也。

第二十三回 兒童の態度に関する訓話

本日の學校新聞にも記載しある如く去る八月天長節の佳日には式後本校卒業生の同窓會ありて、集るもの數百十餘人其内には商業に従事するものあり、高等小學校に通學するものあり、中學程度の學校に入りたるものありて、男女併合して本校母校に集り種々の餘興ありて愉快なる一日を送りたり。特に余が最も意想外なりしは、卒業生が凡て規律正しく割合に相當の態度を守りたること也。同窓會開會中の時間は午前十時より午後五時にいたる非常なる長時間を要せ

しも其の間に於て不規律にして亂暴なるが如き行爲は之を見ざりし也。此の如く卒業生の行狀宜しきは實に余の満足とする所也。生徒諸子、余は本日諸子に向つて二個の注意を與へんとす。注意とは何ぞや一は諸子が、即饒舌多きことにして、多數集りたる場合例へば整列其の他教室にありては、相當に規律正しきも諸子が洒掃當番の場合及學校より下校する時の玄關に於ける行爲其の他朝の時間に校門に集りたる場合の如きは百の雀も及ばざる底の喧噪を極む、是等は十分注意を要せざるべからざるなり。

其の二は諸子の態度が輕卒にして野卑なる事也。諸子が學校に於ける廊下其の他運動場に於ける行爲を見るに其の態度着實應悠の態なく、實にコセ／＼したる風あり、是實に注意を要すべき事なるを以て諸子は十分に此の二つの點につきて最大の注意を拂はざるべからざる也。

生徒諸子が卒業したる後も常に學校に於て規律を守りたるが如く卒業後にありても一層善良なる兒童たらん事を望む、例へば現在の各學年生は今より其心掛をなせば數年の後には最もよき兒童たるを得べき也。又六學年生は尙四五ヶ月の間にて此の心得を守る時は必ず其の効果あるべき也。

第二十四回 校外兒童心得に關する訓話

生徒諸子、近頃校外に於ける諸子の行爲を見るに往々途中に立ちておでん又は焼芋等の立食をなすものあり、是實に見苦しきことにして兒童の心得を忘却したるもの也。勿論食物は身體の營養上缺ぐべからざるものなるを以て之を禁止するの必要なきのみならず却つ

て其の必要あるものなれども、途中にて立食をなすが如き行爲は深く之を戒めざるべからず。又學校の裏門の壁其の他市中の家に落書をなせるものあり。是等は學校兒童外のものも之をなすもの多きも、或は本校の兒童にも亦之をなすものあるが如し。特に本校校内便所内にも亦落書せるものあるは實に悲むべき現象なりといはざるべからず。是等は今日限り堅く之を禁止するを要す。

又本日の學校新聞にも記載しある道路通行の規則の如き、諸子は必ず左側通行を勵行し、特に人道と車道との別を明にし、決して規則に違反するが如きことあるべからざる也。其の他又市中の道路に群集して通行人の妨をなし、或は又種々の遊戯をなして公衆の妨害をなすが如き深く注意せざるべからざる也。

第二十五回 兒童の操行に關する訓話

生徒諸子、諸子の近頃に於ける操行は未だ十分に善良なりと云ふを得ず。然れども亦決して悪しきにも非ず。諸子は常に注意して操行を正しくせざるべからず。凡そ何事をなすにも日一日、年一年に進歩すべきは理論上の原理なるべきも、諸子の操行は前日よりも本日、本月よりも來月、昨日よりも今日、今日よりも明日といふが如く其の成績は善良にして進歩すべき筈なるに、未だ其の効果を見ざるは遺憾とする所也。

例へば諸子の毎日に於ける整列の有様を見るに、其の形は整列をなせるも未だ眞の整列をなしたりといふを得ず。諸子の整列は單に身體則ち手足等の整列したるのみにして、其の大切なる精神の整列を